

第12回群馬県小学校生活科・総合的な学習研究協議会
令和4年度小学校教科別研究会（生活・総合）

《研修主題》

協働的に学ぶ児童の育成

～具体的な児童の姿を明確にした交流活動の工夫を通して～



令和4年11月4日(金)

前橋市立桃木小学校

目 次

はじめに

I 研究の概要

- 1 研修主題・副主題
- 2 主題設定の理由
- 3 研究のねらい
- 4 研究の内容
- 5 研究の組織
- 6 研究の経過・計画（令和4年度）

II 研究の実践

- 1 総合的な活動の時間全体計画

- 2 総合的な学習の時間年間活動計画
 - (1) 3 学年
 - (2) 4 学年
 - (3) 5 学年
 - (4) 6 学年

- 3 協働的な学びをする児童の姿一覧表
 - (1) 1 学年
 - (2) 2 学年
 - (3) 3 学年
 - (4) 4 学年
 - (5) 5 学年
 - (6) 6 学年

- 4 実践事例
 - (1) 2 学年実践事例
 - (2) 3 学年実践事例
 - (3) 4 学年実践事例
 - (4) 6 学年実践事例
 - (5) ICT 研修・思考ツール一覧表

III 指導案

- (1) 1 年生生活科
- (2) 5 年生総合的な学習の時間

IV 研究のまとめ

はじめに

新型コロナウイルス感染症が収束しない中、限られた人数ではありますが、関係者の皆様にご参加いただき、第12回群馬県教育研究会生活科・総合的な学習研究協議会並びに前橋市小学校教科別研究会を開催できますことをうれしく思います。

本校は、目の前に桃ノ木川が流れ、田園風景の広がる自然豊かな場所にあります。校庭にも多くの樹木が生え育ち、カブトムシやクワガタムシなどの昆虫、ドングリや松ボックリなどの木の実を集めることができます。子供たちはそのような環境の中で、自然に親しむ機会に恵まれ、伸び伸びと生活しています。

今回の授業提案では、1年生は、ドングリなどの自然物を生かしたおもちゃ作りを友達と関わりながら行い、自然の変化や遊びの楽しさを生活に生かしていく学習を計画しました。5年生は、桃ノ木川を素材として、水環境に配慮した生活を実践し、広めるために何ができるかを考えていく学習を計画しました。

生活科・総合的な学習の時間は、各学校の置かれている環境等に応じた様々な取組がなされています。これらの教科等は、必ず一つの正解があるものではないことを題材として追求しています。将来の変化を予測することが困難な時代であり、正解のない問いと共に生きる時代です。そのような時代をたくましく生き抜くには、試行錯誤しながら、それぞれの考えを共有し、新しい解や納得解を生み出していく力が必要となります。そのような資質・能力を育むために、本校としては協働する姿に着目し、研修に取り組んでまいりました。協働することは、問題を解決するため、学習のねらいを達成するための手段ではありますが、子供たちがこれから直面する課題を解決するための大きな手掛かりとなります。協働することの良さを体感し、これからの生活に生かしていくことを願っています。

また、新型コロナウイルス感染症は、長期にわたる臨時休業や3密を避ける新しい生活様式など、学校教育に大きな影響を与えました。悪影響ばかりでなく、GIGAスクール構想が一気に進み、ICTを活用した授業づくりが積極的に行われるようになりました。本校では、思考ツールを使って考えを共有するために、Googleの提供するJamboardを活用することにも取り組んでみました。

研修を進めるにあたり、ご指導とご助言をいただきました前橋市教育委員会の指導主事様をはじめ、多くの皆様のおかげと心より感謝申し上げます。

結びに、本校の道半ばの実践ではありますが、ご参加いただきました皆様の学校において、少しでも授業改善等の参考になれば幸いに存じます。

前橋市立桃木小学校
校長 岩井 正昭

I 研究の概要

1 研修主題

協働的に学ぶ児童の育成

～具体的な児童の姿を明確にした交流活動の工夫を通して～

2 主題設定の理由

(1) 学校教育目標から

本校では「豊かな心をもち生き生きと活動する子供を育てる」ことを学校教育目標として掲げ、「たすけあう子・よく考える子・やりとおす子」を目指す児童の具体目標として設定している。学校経営の重点の1つとしては、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」を取り上げ、具体的な重点を「子供の疑問を生かすめあての設定と、まとめ・振り返りを大切にした学習過程による授業改善に努めること」「指導者用デジタル教科書や一人一台タブレットを活用した協働的な学習を推進すること」「生活科・総合的な学習の時間を軸とした教科等横断的な教育課程の編成により、実生活や社会との関わりを意識した教育活動の質の向上を図ること」としている。そこで、これを実現するために、生活科及び総合的な学習の時間において、協働的な学びをする児童の具体的な姿を明確化し、単元や授業を構成することとした。

(2) 児童の実態から

本校の児童は、素直で明るく、新しいことに興味をもち、みんなでやってみようと、前向きな児童が多い傾向にある。一昨年度末、コロナ禍の中で導入された一人一台タブレットについては、積極的に使い方やルールを学び、タブレットを活用した班や学級、時には学年全体など、大勢で話し合う活動に意欲的に参加する姿が見られた。

しかし、その話し合いの場が、教師自身がタブレットを取り入れた授業について試行錯誤する途中であったことから、教師主体の授業となることが多くなってしまった。また、多様な情報に触れたり、異なる視点から検討したり、学習のパートナーとしての仲間意識を生みだしたりするなど、主体的・対話的で深い学びを実現するための必要要素としての「協働的な学び」の実現に至らなかった。

また、全国学力学習状況調査では、自己肯定感が高い傾向にあり、日常生活を見ていると、友達に思いやりをもった優しい行動をとれる児童も多い。また、様々な授業において、友達との交流学習には楽しく取り組むことのできるよさがある一方で、交流によって各々の考えを深めたり広げたりする力は十分ではないと考えられる。

以上のことから、今年度の研修として、「協働的な学び」をする児童の姿を明らかにし、その姿の表出を目指し、単元構成や授業の展開を工夫することを通して、主体的・対話的に深く学ぶ児童の育成に取り組んでいきたい。

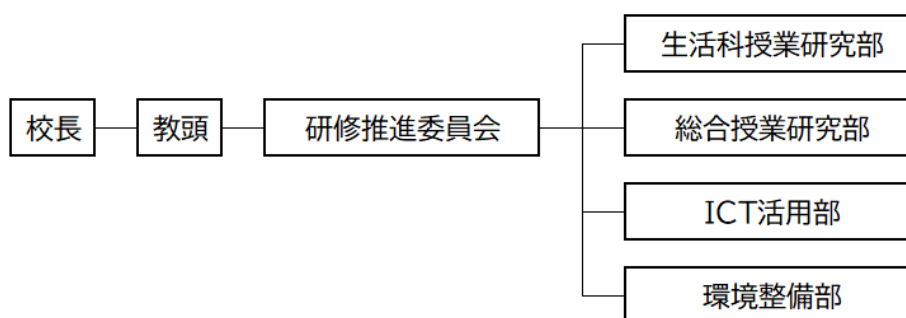
3 ねらい

- ・「協働的な学び」をする児童の姿を明らかにし、その姿の表出を目指す。
- ・単元構成や授業の展開を工夫することを通して、主体的・対話的に深く学ぶ児童の育成を図る。

4 内容

1 年 次	<ul style="list-style-type: none"> ○総合的な学習の時間全体計画の見直し <ul style="list-style-type: none"> ・学年ごとに探究課題の解決を通して育成する具体的な資質・能力を入れた全体計画を作成する。 ○年間活動計画の見直し <ul style="list-style-type: none"> ・年間活動計画の中に単元活動計画も取り入れた新形式に変更する。 ・児童の思いを生かした探求課題を設定し、他教科との連携を意識した年間活動計画を作成する。 ・探究のプロセス（課題の設定→情報の収集→整理・分析→まとめ・表現）が発展的に繰り返されるような単元計画を作成する。
2 年 次	<ul style="list-style-type: none"> ○学びを深めるための協働的な学びの実現 <ul style="list-style-type: none"> ・各学年の目指す「協働的な学びをする児童の姿」として、目指す児童像を過程ごとに具体的にしたものを作成する。 ・探究的な学習を実現させるために、協働的な学びを取り入れ、交流活動を工夫する。 ・個別最適な学びや協働的な学びを実現させるための思考ツールやタブレットの活用方法を工夫する。

5 研究の組織



6 研究の経過・計画(令和4年度)

(1) 研究の経過

月	研修内容	研修形態
4	・第1回全体会について	推進委員会
	・年間計画・研修テーマ・研修組織の確認 ・研修の計画について検討 ・代表授業学年・授業者検討 ・協働的な学びをする児童の姿検討 ・まえばし学校教育充実指針との関連について	全体会① 各学年
5	・「協働的な学びをする児童の姿」系統確認	推進委員会
	・代表授業教材研究	全体会②
6	・第3回全体会について	推進委員会
	・Google ジャムボード勉強会① 思考ツール紹介	全体会③

月	研 修 内 容	研修形態
7	・第4・5回全体会について	推進委員会
	・発表資料掲載内容及び分担について ・要請訪問について	全体会④
	・Google ジャムボード勉強会②	全体会⑤
	・第1回要請訪問 生活科授業づくり検討会	1学年部会
	・第2回要請訪問 総合生活科授業づくり検討会	5学年部会
夏休 み	・代表授業指導案作成 ・発表資料作成	各班・学年
9	・第6回全体会について	推進委員会
	・研究発表会当日の係分担について ・指導案検討会・環境整備について	全体会⑥ 各部会
	・研究発表会当日の概要について ・要請訪問及び紀要原稿について	推進委員会
10	・研究発表会について ・要請訪問及び紀要原稿について	全体会⑦
	・指導案検討会	生活科部会
	・指導案検討会	総合部会
	・要請訪問について ・発表準備 ・プレ授業指導案提出	全体会⑧ 学年、班別部会
	・第3回要請訪問（生活科・総合プレ授業、班別協議）	1年生活科 5年総合
11	前橋市教科別及び群馬県小学校生活科・総合的な学習研究協議会発表 1年「たのしいあき いっぱい」 5年「守ろう！豊かな水資源！～save the water～」	

(2)計画

12 ～ 3	・生活科・総合的な学習の時間の成果と課題分析	推進委員会
	・生活科・総合的な学習の時間の成果と課題分析	学年研修
	・年間活動計画・単元の見直しと修正	学年研修
	・年間活動計画・単元の見直しと修正	全体会

II 研究の実践

1 桃木小学校 総合的な学習の時間 全体計画

児童の実態 ・素直で、明るく挨拶ができる児童が多い。 ・自己肯定感は、高い傾向にある。 ・自己判断力が、弱い傾向にある。 ・友達との交流学習には楽しく取り組むが、交流によって各々の考えを深めたり広めたりする力は十分ではない。	総合 第1 の 目標	学校教育目標 豊かな心を持ち、生き生きと活動する子供を育成する ○たすけあう(思いやりをもって互いに高めあう子) ○よく考える(深く考え判断し、自ら学びとる子) ○やりとおす(たくましさを持ち、ねばり強くやり抜く子)	地域の実態・願い ・学校教育活動に協力的であり、PTAや地域に根ざした活動も充実している。
---	---------------------	---	---

総合的な学習の時間の目標
探究的な見方・考え方を働かせ、探究的な学習活動を通して、総合的に追究する方法を身に付け、そこにある課題を主体的に見出し、仲間と協力して問題を解決するとともに、自己のあり方や生き方を見つけようとする態度を育てる。 (1) 探究的な学習の過程において、これまでに身に付けた資質・能力を生かしながら、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさに気付く。 (2) 実社会や実生活の中から問いを見出し、自分で課題を立て、様々な方法で集めた情報を整理・分析し、各教科等で身に付けた資質・能力を生かしてまとめ、表現する力を身に付ける。 (3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、自分のできることを考え、自ら社会に参画しようとする態度を育てる。

総合的な学習の時間の内容

学年	3年	4年	5年	6年	
テーマ	地域(前橋市)	地域(群馬県)	環境	生き方	
探究課題	前橋市の理解と愛着	群馬県の理解と地域との関わり	身近な自然環境とそこにある環境問題	実社会で働く人々の姿と自己の将来	
知識及び技能	知識	自分たちの住む市の特徴やよさを知ることができる。	県のよさやそこに住む人々の思いを理解することができる。	環境を守ろうとする人々の思いや工夫、取組を理解することができる。	社会には様々な職業があることが分り、それぞれの職業で働いている人の思いややりがいを理解することができる。
	技能	地域にあるものや自然を大切に扱ったり、そこに住む人々と接したりする。	群馬県に昔からあるものや自然を大切に扱ったり、そこに住む人々と接したりする。	自然保護や環境保全について、学校や家庭で自分にできることを行う。	職業について調べたり、考えたりしたことについて、目的意識をもって自分の夢や将来にいかす。
	探究的な学習のよさの理解	地域を大切にしたいという自分たちの思いの変容は、地域のよさについて探究的に学んだことによる成果であることに気付く。	地域を大切にしたいという自分たちの思いの変容は、地域のよさや人々の思いについて探究的に学んだことによる成果であることに気付く。	自然や環境を守りたいという意識や行動の変容は、環境を守ろうとする人々の思いや工夫、取組について探究的に学んだことによる成果であることに気付く。	自分の夢や将来の希望を実現したいという意識や行動の変容は、それぞれの職業につく人々の思いやそれぞれの職業への道筋を探究的に学んだことによる成果であることに気付く。
思考力・判断力・表現力	課題の設定	身近な地域に関する課題を設定するとともに、解決に必要な調査方法を明確にしながらいフィールドワークの計画を立てることができる。		自分達を取り巻く社会に広く目を向けて課題を見出し、解決の方法や手順を考え、見直しをもって計画を立てることができる。	
	情報の収集	ICTや図書館を活用して調べたり、人に聞いたりして、必要な情報を集めることができる。		多様な方法で自分の目的や意図に即した情報を収集し、種類に合わせて紙面やICTで蓄積することができる。	
	整理・分析	集めた情報を比較し、観点ごとに分類し、表などを用いて整理することができる。	集めた情報を表やグラフ、思考ツール等を用いて分類・整理し、特徴を見付けることができる。	集めた情報をいろいろな思考ツール等を用いて整理し、情報と情報の関係を考えることができる。	集めた情報をいろいろな思考ツール等を用いて整理し、情報と情報の関係を通して、自分の考えをもつことができる。
	まとめ・表現	他教科等で培った表現力等を生かし、相手に伝わるようにまとめることができる。	他教科等で培った表現力等を生かし、相手に応じて分かりやすく表現することができる。	他教科等で培った表現力等を活用し、目的に応じて手段を選択し、情報収集やまとめ等を行うことができる。	他教科等で培った表現力等を活用したり、学習の仕方を振り返りほかの学習や生活に生かしたりすることができる。
学びに向かう力・人間性	自己理解・他者理解	課題解決の中で、自分の考えと異なる意見や考えがあることを学び合おうとする。	探究活動の中で、自分や友達の意見や考えそれぞれによさがあることを知り、学び合おうとする。	探究活動を通して、自分のよさや他者のよさを生かしながら、協働して学び合おうとする。	探究活動を通して自分自身を理解し、他者の考えを尊重しながら、協働して学び合おうとする。
	主体性・協働性	身近な人と力を合わせて課題を解決しようとする。	身近な人と協力して探究活動を行おうとする。	他者と協働して探究活動に取り組み、協働の大切さに気付いている。	すすんで他者と協働して探究活動に取り組み、協働の大切さに気付いている。
	将来展望・社会参画	地域との関わりの中で、自分にできそうなことを見付けようとする。	地域との関わりの中で、自分にできることを見付けようとする。	地域との関わりの中で、自分にできることを見付け、実践に移そうとする。	地域の方から学んだことを生かし、自己の生き方を考え、夢や希望を持続けようとする。

他教科で身に付けた資質・能力

【学習活動】 ・地域や社会の実態、児童の実態を踏まえ、価値ある探究課題を設定できるようにする。 ・多様な人々と協働して解決する必要がある課題を設定する。	【指導方法】 ・教科等横断的な見方を意識し、関連付けを重視した指導を行う。 ・単元を貫く課題を児童が意識しながら学習を進められるよう、常に目的を確認させる。 ・協働的な学びを充実させるため、思考ツールを積極的に活用する。 ・言語による「まとめ・表現」の質が高まるよう、日ごろから語彙力をつける指導を行う。	【指導体制】 ・総合主任を中心に、学年、学年ブロック体制で指導するなど、全職員による組織的な指導体制を進める。 ・校内研修を活用し、連絡調整・連絡体制を整える。 ・地域人材や外部機関などを積極的に活用する。 ・新たな単元構想や地域の文化、産業を学ぶなど教職員が創造的に考える。	【学習の評価】 ・児童一人ひとりに総合ファイルを作り、学びを紙ベースで蓄積するとともに、タブレットパソコンの中にも学びの足跡を残していく。 ・個人内評価を重視する。 ・評価規準を明確に設定し、指導と評価の一体化を充実させていく。
---	---	---	--

2(1) 第3学年 桃木タイム 年間活動計画		目標			
単元名	前橋のよさを伝えよう				
評価規準	<p>知識・技能</p> <p>①自分たちの住む市の特徴やよさを知る。 ②地域にあるものや自然を大切に扱ったり、そこに住む人々と接したりしている。 ③地域を大切にしたいという自分たちの思いの変容は、地域のよさについて探究的に学んだことによる成果であることに気付いている。</p> <p>思考・判断・表現</p> <p>①身近な環境に関する課題を設定するとともに、解決に必要な調査方法を明確にしながらいフィールドワークの計画を立てている。 ②ICTや図書館を活用して調べたり、人に聞いたりして、必要な情報を集めている。 ③集めた情報を比較し、観点ごとに分類し、表などを用いて整理している。 ④他教科等で培った表現力等を生かし、相手に伝わるようにまとめている。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度</p> <p>①課題解決の中で、自分の考えと異なる意見や考えがあることを学び合おうとしている。 ②身近な人と力を合わせて課題を解決しようとしている。 ③地域との関わりの中で、自分にできそうなことを見つけようとしている。</p>				
月	4～5月	6月～7月	7月～10月	11月～2月	3月
過程	つかむ	追究する①	追究する②	追究する③	まとめる
活動	<p>【小単元名学校の周りの様子を調べよう9時間】 1探究課題と出会い、単元の課題を把握する。 ①探究課題と出会う。 ・オリエンテーリングをして学習の流れを知る。 ・社会「学校の周りの様子」や生活科の学習をふり返り、あおすめを紹介する。 ②単元の課題を把握する。 ・学校の周りの自然、人、ものを知る。 ③追究の見通しをもつ前橋市のよさを伝えることについて考える。</p>	<p>【小単元名前橋市はっけんたい①14時間】 2 単元の課題に基づき、グループでの課題を設定し、追究する。 ①課題の設定 ・前橋市について調べたいことを出し合い、調べたいことを決め、班を作る。 ②情報の収集 ・インターネットや本、パンフレット・広報で探したり、実際に行ったりして前橋市のよさの情報収集をする。 ③整理・分析 ・調べたことことを視点を決めて整理・分類し地図上にまとめる。 ④まとめ・表現 ・活動を通して分かったことや考えたことをまとめる。 ・前橋市のよさについてまとめたことを報告し合うことで、情報や意見の共有を行い、前橋市についてもっと調べたい、発信したいという願いをもつ。</p>	<p>【小単元名前橋市はっけんたい②24時間】 3 新たな課題を見だし、継続して追究する。 ①課題の設定 ・よさを発信するために調べてみたいことがらを選ぶ。 ②情報の収集 ・収集した情報からよさに関わる情報を関連付ける。 ・自分で選んだ方法を使ってさらに調べる。 ③整理・分析 ・自分が選んだことがらについてどんなよさがあるか、整理・順序付けをしておまめ。 ・各自がまとめた前橋市のよさを発表することを通して、前橋市のよさを大まかに分類してまとめる。 ・知ったことを身近な地域と結び付けて見直してみる。 ④まとめ・表現 ・前橋市についてのよさを自分なりにふり返ってまめ、伝えたい相手に分かりやすく伝えたいという願いをもつ。</p>	<p>【小単元名前橋市のよさを伝えよう20時間】 ①課題の設定 ・前橋市のよさを伝えるためのポスター作りに必要な課題を出し合う。 ・課題をもとに、自分なりのポスターのテーマを決める。 ②情報の収集 ・ポスターの作り方やローマ字を学ぶ。 ・テーマにあった方法、資料を集める。 ④まとめ・表現 ・ポスターを制作をし、みんなの作ったポスターを見合う。</p>	<p>【まとめ3時間】 4 単元全体の学習を振り返る。 ◇これまでの学習を、ファイルや作成物等から振り返り、頑張ったことや成果を話し合う。 ・全活動をふり返り、まとめたことや考えたことを、生活の中で生かしたいという願いをもつ。</p>
他教科等との連携	<p>国語「よく聞いて自己紹介」</p> <p>国語「図書館たんていだん」</p> <p>国語「春のくらし」</p> <p>社会「学校のまわりと市のようす」</p> <p>理科「しぜんのかんさつ」「植物の育ち方」</p>	<p>国語「国語辞典を使おう」</p> <p>国語「仕事のくふう、見つけたよ」</p> <p>国語「引用するとき」・ローマ字</p> <p>社会「店ではたらく人」</p> <p>理科「こん虫の育ち方」</p> <p>道徳「ふるしき」</p>	<p>国語「山小屋で三日間過ごすなら」</p> <p>国語「ポスターを読もう」</p> <p>国語「秋のくらし」</p> <p>社会「農家ではたらく人」</p>	<p>国語「すがたをかえる大豆」</p> <p>国語「はんで意見をまとめよう」</p> <p>国語「これがわたしのお気に入り」「わたしたちの学校じまん」「コンピュータ ローマ字入力」</p> <p>社会「市のうつりかわり」</p> <p>図工「ねん土マイタウン」</p> <p>道徳「おもてなしってなあに」</p>	<p>国語「冬のくらし」</p>
地域・外部との連携	<p>社会科見学 前橋市内巡り JAビル 群馬県庁</p>	<p>夏休みを利用した見学・写真撮影・資料収集・インタビュー</p>	<p>講師を招いての手話教室</p>		

(2) 第4学年 桃木タイム 年間活動計画		目標		
単元名	群馬県よさを発信しよう			群馬県よさを発見しようと調べたり、見つけたよさを発信したりする取組を行うことを通して、群馬県よさを理解するとともに、群馬県に対する愛着を深め、自らの生活の中や行動に生かすことができるようにする。
評価規準	知識・技能 ①県よさやそこに住む人々の思いを理解する。 ②群馬県に昔からあるもや自然を大切に扱ったり、そこに住む人々と接したりしている。 ③地域を大切にしたいという自分たちの思いの変容は、地域のよさや人々の思いについて探究的に学んだことによる成果であることに気付いている。	思考・判断・表現 ①身近な環境に関する課題を設定するとともに、解決に必要な調査方法を明確にしながらフィールドワークの計画を立てている。 ②ICTや図書館を活用して調べたり、人に聞いたりして、必要な情報を集めている。 ③集めた情報を表やグラフ、思考ツール等を用いて分類・整理し、特徴を見つけている。 ④他教科等で培った表現力等を生かし、相手に応じて分かりやすく表現している。	主体的に学習に取り組む態度 ①探究活動の中で、自分や友達の意見や考えそれぞれによさがあることを知り、学び合おうとしている。 ②身近な人と協力して探究活動を行おうとしている。 ③地域との関わりの中で、自分にできることを見つけようとしている。	
月	4・5月	5月～9月	10月～2月	3月
過程	つかむ	追究する①	追究する②	まとめる
活動	<p>1探究課題と出会い、単元の課題を把握する。【8時間】</p> <p>①探究課題と出会う。 ・上毛かるたで遊んだりガイドブックを読んだりすることを通して、群馬県について興味をもつ。 ・都道府県魅力度ランキングを提示し、なぜ群馬県は魅力が足りないのか疑問をもたせ予想を広げて共有する。</p> <p>②単元の課題を把握する。</p> <p>③追究の見通しをもつ。 ・群馬県よさを伝えるために調べ発信方法を決めて製作・発信するという見通しをもつ。 ・調べるためにかかるたを分類し、調べる視点をもつ。(文化財、産業・交通、偉人交通、観光、自然、温泉など) ・群馬県よさをよりよく知ってもらうために先ず自分が群馬のよさを知り興味をもった視点から調べたいという願いをもつ。</p>	<p>【小単元名 群馬県よさを発見しよう30時間】 2単元の課題に基づき、グループの課題を設定し追究する。</p> <p>①課題の設定 ・群馬県よさを発信するために、自分が調べてみたいテーマを決める。</p> <p>②情報の収集 ・テーマに沿ってインターネットや本で探したり、実際に行ったりして群馬県よさを調べる。</p> <p>③整理・分析 ・調べたことを思考ツールを使って整理・分析し、群馬県よさをまとめる。</p> <p>④まとめ・表現 ・群馬県よさについてまとめたことを全体に報告し合うことで、情報や意見の共有を行う。 ・群馬県よさを他の人に伝えたいという願いをもつ。</p>	<p>【小単元名 群馬県よさを発信しよう 30時間】 3 新たな課題を見だし、継続して追究する。</p> <p>①課題の設定 ・群馬県よさを分かりやすく発信しようとする課題をもつ。</p> <p>②情報の収集 ・発信する対象と発信方法、発信の場について、情報や資料を集める。 (対象者: 下学年、上学年、保護者、若い人、お年寄など、家族など) (方法: 劇、クイズ、パンフレット、新聞、リーフレット、動画、CMなど) (場 : 学校内、家庭、地域、前橋市、県など)</p> <p>③整理・分析 ・情報を基に、伝える対象を決定する。 ・発信方法の長所と短所を思考ツールを使って考え、自分たちでできる最善の方法を探る。 ・話し合いを基に学年で発信方法と発信の場を決定する。 ・班として伝えるよさを決定する。</p> <p>④まとめ・表現 ・班ごとに製作する。(・発信するための注意事項を学ぶ。 ・資料を集める。 ・記事や資料を検討する。) ・製作途中に、学級または学年で検討会を開き、助言し合う。 ・学年で発表会を開く。 ・発信する。</p>	<p>4 単元全体の学習を振り返る。【2時間】</p> <p>◇これまでの学習をファイルや作成物等から振り返り、頑張ったことや成果を話し合う。</p> <p>◇全活動をふり振り返り感想や生活に生かそうとする願いをもつ。</p>
他教科等との連携	<p>国語「聞き取りメモのくふう」</p> <p>3年国語「わたしたちの学校じまん」</p> <p>国語「お礼の気持ちを伝えよう」</p> <p>社会「県の広がり」</p>	<p>国語「要約するとき」</p> <p>国語「新聞を作ろう」</p> <p>国語「思いやりのデザイン」 「アップとルーズで伝える」</p>	<p>国語「クラスみんなで決めるには」</p> <p>国語「パンフレットを読もう」</p> <p>3年国語「ポスターを読もう」</p> <p>国語 百科事典「伝統工芸のよさを伝えよう」(リーフレット)</p> <p>社会「郷土の伝統・文化と先人たち」</p>	<p>国語「調べて話そう、生活調査隊」</p> <p>社会「特色ある地域と人々の暮らし」 (嬬恋村) (桐生市) (太田市)</p>
地域・外部との連携	<p>社会科見学 ①敷島浄水場 ②六供清掃工場</p>	<p>出前講座(古墳) 群馬県文化財保護課</p>	<p>夏休みを利用した見学・写真撮影・資料収集・インタビュー</p>	<p>出前講座(富岡製糸場) 群馬県世界遺産センター</p>

(3) 第5学年 桃木タイム 年間活動計画		目標					
単元名	守ろう！豊かな水資源！～save the water～						
評価規準	<p>①身近にある川の働きや役割、水をめぐる問題について探究していく学習を通して、自然保護や環境保全の大切さや人々の思いや工夫について理解している。</p> <p>②普段何気なく使っている水や水をめぐる問題について、必要な情報を、ウェブサイトや本などの資料から、計画した時間の中で効率よく収集している。</p> <p>③豊かな水資源を守りたいという意識や行動の変容は、環境を守ろうとする人々の思いや工夫、取組について探究的に学んだことによる成果であると気付いている。</p>	<p>①身近にある川の働きや役割、水をめぐる問題について、小さな疑問から課題を設定し、解決の見通しをもって活動計画を立てている。</p> <p>②普段何気なく使っている水や水をめぐる問題について、必要な情報を、個々やグループの疑問や課題に応じて収集し、ワークシートに蓄積している。</p> <p>③豊かな水資源を守っていくために、たくさんの人に広めていく活動の計画と実践について、必要な情報を取捨選択したり、複数の情報を比較したり関連付けたりしながら、より良い方法を考えている。</p> <p>④伝える相手や目的に応じて、自分やグループの考えをまとめ、適切に表現している。</p>					
月	4月～5月	5月～6月	6月～9月	10月～3月	3月		
過程	つかむ	追究する①	追究する②	追究する③	まとめる		
活動	<p>【川的环境について調べよう6時間】 1 探究課題と出会い、単元の課題を把握する。</p> <p>①探究課題と出会う。 ・「環境」とは？を出発点とし、自分たちの周りに広がる環境について知る。 ・環境教室を開き、興味関心を高め、意欲付けをする。</p> <p>②単元の課題を把握する。 ・川の水をスタートとし、ウェビングを行い視野を広げ、川の働きや役割について調査をすることで、水をめぐる問題に気づき、自分たちにできることをしようという思いや願いをもつ。</p> <p>③追究の見通しをもつ。 ・自分たちでできる環境を守る方法を身近な人に広げる活動に取り組むという見通しをもつ。</p>		<p>【水をめぐる問題について調べよう12時間】 2 単元の課題に基づき、グループでの課題を設定し、追究する。</p> <p>①課題の設定 ・水をめぐる問題について学級で話し合いを行い、グループごとに調べてみたい課題を決める。</p> <p>②情報の収集 ・普段の生活を振り返りながら、水をめぐる問題について、本やインターネット等を活用し、情報を収集する。</p> <p>③整理・分析 ・思考ツール等を用いて集めた情報を整理し、水をめぐる問題や生活の仕方、それらの情報と情報の関係を考える。</p> <p>④まとめ・表現 ・川や水の役割や働き、水をめぐる問題や自分たちの生活の仕方について使ってまとめる。 ・発表会を通して、水資源の大切さや生活の仕方等を共有する。 ・大切な水資源を守る方法を見付け、実践してみたという思いや願いをもつ。</p>		<p>【自分たちができることを実践してみよう 20時間】 3 新たな課題を見だし、グループで継続して追究する。</p> <p>①課題の設定 ・自分たちに実践できそうなことを見付け、実践しようとする課題をもつ。</p> <p>②情報の収集 ・本やインターネットを活用したり、インタビューをしたりして、豊かな水資源を守っていくための活動や方法を調べる。 ・グループごとに調べた思考ツールを使って整理・分析し、自分たちで実践する方法を決める。 (節水の工夫・水を汚さない工夫、ものを大切にす工夫など) ・活動計画を立て、グループごとに実践する。 ・個人目標を設定し、「まえばし環境家族」に参加する。</p> <p>③整理・分析 ・グループでの実践や「まえばし環境家族」での個人の実践の振り返りを行い、実践方法の有効性を検証する。</p> <p>④まとめ・表現 ・検証したことをもとに身近な人に広げたい活動をグループの意見としてまとめる。 ・発表会を開き、実践の内容と効果を共有する。 ・効果的な実践を身近な人にも実践してもらいたいという思いや願いをもつ。</p>	<p>【水資源を守るために提案しよう！ 30時間】 4 新たな課題を見だし、グループで継続して追究し、発信する。</p> <p>①課題の設定 ・自分たちの実践を身近な人に広げるために提案したいという課題をもつ。</p> <p>②情報の収集 ・提案する対象、方法、場について、資料や情報を集める。 (対象者：下学年、6年、保護者、地域等) (方法：劇、クイズ、ポスター、動画、新聞、スライドなど) (場：各教室、学校内、クラスルーム、地域の回覧板など) ・桃木小児童を対象に、環境に関するアンケートを行い、実態を調査する。</p> <p>③整理・分析 ・アンケート調査の結果をグラフ化して整理分析することで、桃木小児童の実態を把握する。 ・アンケート調査結果、自分たちが伝えたい実践方法をもとに、提案したい相手や提案方法、提案の場を決める。</p> <p>④まとめ・表現 ・班ごとに提案準備(製作、練習等)をする。 ・中間検討会を開き、助言し合う。 ・対象に向けて提案する。 ・提案後、活動を振り返り、報告会を開き、共有する。</p>	<p>【まとめ 2時間】 5 単元全体の学習を振り返る。</p> <p>◇これまでの学習を、ファイルや作成物等から振り返り、頑張ったことや成果を話し合う。</p> <p>・全活動を振り返り、まとめたことや考えたことを、生活の中で生かしたいという思いや願いをもつ。</p>
他教科等との連携	<p>国語「季節の言葉」</p> <p>理科「生命のつながり」</p> <p>社会「私たちの国土」</p>	<p>道徳「サタデーグループ」「ひとふみ十年」</p> <p>学活「赤城林間学校オリエンテーション」</p> <p>行事「赤城林間学校「桃ノ木川クリーン作戦」</p>	<p>理科「流れる水の働きと土地の変</p> <p>学活「地域の自然環境に親しもう」</p>	<p>道徳「流行おくれ」</p> <p>学活「地域の自然環境に親しもう」</p>	<p>家庭「暖かく快適に過ごす着方」</p> <p>社会「私たちの生活と環境」</p>	<p>道徳「ふくらんだりリユック」</p>	
と地域・外の連携	<p>行事「児童文化センター環境教室」</p> <p>「桃ノ木川を愛する会」の方の講話</p>	<p>まえばし健康家族「目指せエコマスター」</p>	<p>NPO法人気象キャスターネットワーク「地球温暖化出前授業」</p>	<p>JR東日本出張授業「環境にやさしい鉄道の秘密を探れ！」</p>			

(4) 第6学年 桃木タイム 年間活動計画		目標
単元名	わくわく夢プロジェクト	
評価規準	<p>①社会には様々な職業があること分かり、それぞれの職業で働いている人の思いややりがいを理解している。</p> <p>②職業について調べたり、考えたりしたことについて、目的意識を明確にしながらまとめる方法が分かっている。</p> <p>③自分の夢や将来の希望と実現したいという意識や行動の変容は、それぞれの職業につく人の思いやそれぞれの職業への道筋を探究的に学んだことによる成果であることに気付いている。</p>	<p>①自分達を取り巻く社会に広く目を向けて課題を見出し、解決の方法や手順を考え、見通しを持って計画を立てている。</p> <p>②多様な方法で自分の目的や意図に即した情報を収集し、種類に合わせて紙面やICTに蓄積している。</p> <p>③いろいろな思考ツール等を用いて、集めた情報を整理し、情報と情報の関係を考えることを通して、自分の考えをもつことができている。</p> <p>④他教科等で培った表現力等を活用したり、学習の仕方を振り返り他の学習や生活に生かしたりしている。</p>
月	4～5月	6～8月
過程	つかむ	追究する①
活動	<p>「自分について考えたり、仕事について調べたりしよう」【8時間】</p> <p>①探究課題と出会う</p> <p>○自分がどのように生きてきたか、どんなことが好きや嫌いなどどんなことが得意で苦手なのか、将来についてはどう考えているのかをマインドマップでつかむ。【3時間】</p> <p>○社会に存在する仕事を図書室の本で調べたり、タブレットで調べたりして、できるだけ多くの仕事について知る。【3時間】</p> <p>○調べた仕事について考えたことを友達と交流する。【2時間】</p>	<p>○●「仕事のやりがいやつらさを知ろう」【16時間】</p> <p>①課題の設定</p> <p>○「ミライのしごと〜く(ゲーム業界の仕事・市役所の仕事)」を全員で視聴し、メモの取り方を学んだり、実際にメモを取ったり、質問を考えたりする。【2時間】</p> <p>●インタビューしたい人を決める(親・友達の親・親戚・先生など)【1時間】</p> <p>②情報の収集</p> <p>○「ミライのしごと〜く」の中から、自分が知りたい職業を2本選んで各自のタブレットで視聴し、メモを取りながら質問を考えたり、感想をもったりする。【3時間】</p> <p>●インタビューを行う。【家庭学習】</p> <p>③整理・分析</p> <p>○自分と同じ職業を選んで視聴した友達と意見交流する。【3時間】</p> <p>○自分が視聴した仕事のやりがいやつらさ・魅力などを座標軸を用いて整理・分析する。【2時間】</p> <p>④まとめ・表現</p> <p>○座標軸から考えたことを感想としてまとめ、友達と意見交流する。【2時間】</p> <p>●インタビューで聞いたことをパンフレットや新聞にまとめ、友達に調べた感想を伝える。【3時間】</p>
他教科等との連携	<p>学活「6年生になって(キャリアパスポート)」1学期目標設定</p> <p>道徳「母の仕事」</p> <p>修学旅行</p> <p>国語「話し言葉と書き言葉」</p>	<p>学活「6年生になって(キャリアパスポート)」1学期振り返り</p> <p>学活「6年生になって(キャリアパスポート)」2学期目標設定</p> <p>運動会</p> <p>道徳「初めてのアンカー」</p> <p>図工「わたしの大切な風景」</p>
地域・外部との連携	<p>R4ゲストティーチャー「くるみの森・セブンイレブン(保護者)・桃木こども園(保護者)・タキザワ・マクドナルド」※2社くらいずつ3日間で実施</p>	<p>学活「6年生になって(キャリアパスポート)」2学期振り返り</p> <p>就学時健康診</p> <p>国語「今、私は、ぼくは」</p> <p>道徳「ips細胞の向こうに」</p> <p>学活「卒業アルバムを書こう」</p> <p>社会「世界の未来と日本の役割」</p> <p>図工「未来のわたし」</p> <p>卒業式練習・卒業式</p>
月	9月～12月	1～3月
過程	追究する②	まとめる
活動	<p>○「ゲストティーチャーの方のお話を聞こう」【12時間】</p> <p>●「自分わくわく夢プロジェクトを作成しよう」【32時間】</p> <p>①課題の設定</p> <p>○ゲストティーチャーでどんな方が来るのかを知る。【1時間】</p> <p>●ライフプランニングの考え方を知り「夢をかなえるライフプランニング教室」を受講する。【2時間】</p> <p>②情報の収集</p> <p>○ゲストティーチャーの方のお話をメモを取りながら聞き、その場で考えた質問をして答えてもらう。【3時間】</p> <p>●改めて自分の就きたい職業について調べ、その道筋を詳しく知る。【2時間】</p> <p>③整理・分析</p> <p>○ゲストティーチャーの方のお話を聞いた感想を友達と交流し(聞くごとに行う)、新たに気付いたことを付箋に書き、蓄積する。【3時間】</p> <p>○友達と意見交流しながら、ゲストティーチャーの方の仕事のやりがいやつらさについて、ベン図で整理・分析する。【4時間】</p> <p>●ライフプランシートを作成し、アドバイスをしあう。【2時間】</p> <p>④まとめ・表現</p> <p>○ゲストティーチャーのお話を聞いて、「仕事をするということ」についてまとめ、考えを友達と交流する。【1時間】</p> <p>●ライフプランシートをもとに作文を書き、「夢をかなえる作文コンクール」に応募する。【8時間】</p> <p>●ライフプランニングシートと作文をもとに、自分の「わくわく夢プロジェクトパワーポイント」を作成する。【9時間】</p> <p>●「わくわく夢プロジェクト発表会」を保護者・5年生・地域の方に向けて行う。【6時間】</p> <p>●「夢をかなえる作文」をもとに、卒業アルバム原稿を作成する。【2時間】</p>	<p>◇1年間の学習を振り返り、友達と意見交流する。【2時間】</p>

3 協働的な学びをする児童の姿一覧表

生活科 第1学年の目指す 協働的な学びをする児童の姿

過程	協働的に学ぶ児童の姿
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">はたらきかける</p>	<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">①具体的な活動や体験をする</p> <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">②気付いたことや考えたことを表現し、伝え合う</p> <p>がっこうだいすき</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校探検を通して、見つけたことを話したり、絵にかいたり、タブレットで写真に撮ったりムーブノートを活用したりして、わかったことを伝え合っている。伝え合ったことを、これからの学校生活に活かそうとしている。 <p>きれいにさいてね</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝顔が育つ様子を観察して、困ったことやわかったことを伝え合い、世話に生かそうとしている。 ・朝顔の花の様子を観察して、友達と見せ合って比べ、互いのよさや違いに気付いている。 ・幼児期の経験や学校生活をヒントに、種の活用方法について話し合い、活用イメージを広げている。 <p>なつがやってきた</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よい工夫や遊び方を、同じグループに相談し、楽しく遊んでいる。 ・夏の自然の特徴を生かした遊びを友達に紹介したり、友達から紹介された遊びの中から夏の自然の特徴を生かしている点を見つけて、友達に話したりしている。 <p>いきものとなかよし</p> <ul style="list-style-type: none"> ・虫の世話の仕方を考え、調べたことをもとに話し合う。育てて行く中で感じたことを伝え合っている。 ・友達といっしょに世話をする中で、虫の世話の大切さや虫も自分たちと同じように生命をもっていることを実感し、生き物を大切にしようとしている。 <p>たのしいあきいっぱい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集めた自然物を大きさや形、色などの違いを比べ、伝え合っている。 ・秋の自然物を生かせるように相談しながら、飾りやおもちゃを作っている。 ・おもちゃを作り、互いに遊びあうことで、よいところや工夫するところを見つけて伝え合い、交流をもとに自分達のおもちゃを改良しようとしている。 ・作ったおもちゃのよいところや工夫するところを班で話し合ったり、プリントに書いたりして伝え合っている。 <p>じぶんで できるよ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の1日を見つめ直すことで、感じたことを話し合う。話し合う中で、自分でできることを考え、取り組む。 ・取り組みを振り返り、続けてよかったことなどを伝え合っている。 <p>ふゆをたのしもう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冬になって見られなくなったり見られるようになったりした様子を伝え合っている。 ・冬の自然物を生かせるように相談しながら、飾りやおもちゃを作っている。 ・冬になって変わってきたという気付きから、自然の変化、活動の変化だけではなく、自分の変化にも気付き、伝え合っている。 <p>もうすぐ2ねんせい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新入生に喜んでもらうためにどうしたらよいか、考えを伝え合っている。 ・話し合ったことをもとに、新入生が安心して学校生活に慣れていけるような教室飾りや一年の流れをカレンダーにして作ろうとしたり、教室環境を整えようとしていたりしている。

生活科 第2学年の目指す 協働的な学びをする児童の姿

過程	協働的に学ぶ児童の姿
は た ら き か け る	<p>① 具体的な活動や体験をする</p> <p>春だ今日から2年生 ・春の自然と直接関わり、活動する中で見つけたことを伝え合い、活動を広げている。</p> <p>ぐんぐんそだて わたしの野さい ・身近な人に聞いたり友達と自分の世話のしかたを比べたりしながら、自分の野菜に適した世話のしかたを決めている。 ・野菜が大きく成長していることについて友達と見せ合い、話したり比べたりして、観察カードに気づいたことをかいている。</p> <p>どきどきわくわくまちたんけん ・探検で見つけたものをタブレットで撮影したり記録カードにかいたり、友達に伝えたりしている。 ・友達の見つけたものや新たな発見などを聞き、気になったことや分からないことを質問している。 ・みんなと地域での発見を伝え合い、これからの生活に活かそうとしている。</p> <p>生きもの なかよし 大作せん ・どんな生きものがどんな場所にいるのか話し合いながら、生きものを探している。 ・生きものを捕まえたときのことや場所の特徴について記録カードにかき、友達と話し合いながら、すみかをつくっている。 ・これまでに世話を続けてきた生きもののよさや親しみの気持ち、成長したことについて、友達と伝え合っている。</p> <p>もっとなかよしまちたんけん・つたわる広がるわたしの生活 ・探検に行きたい理由を話しながら、探検に行く場所を決めている。 ・探検の目的を達成できるように、グループで話し合いながら探検の計画を立てている。 ・計画した場所に行き、インタビューしたり、見学や体験をしたりする。 ・探検で見つけたものやインタビューした内容についてタブレットで撮影したり、友達と話したりメモを取ったりしている。 ・町探検に行って気付いたことや見つけたものをグループの中で伝え合い、プリントにまとめ、みんなに紹介したいことを話し合って決めている。 ・まとめた作品を見せ合い、工夫した点や互いのよさを交流し合う。 ・他のグループの発表と自分の見つけたことを比べて、同じところや違うところについて考え、自分の住んでいる町についての感想を伝え合っている。</p> <p>うごくうごくわたしのおもちゃ ・自分が作りたいおもちゃについて友達と話しながら、必要な道具や材料をカードにかいている。 ・いろいろな材料や作り方を試し、その動きの特徴を友達と伝え合いながら、おもちゃを作っている。 ・友達の作ったおもちゃのように動かしたいという思いを話しながら、どこをどのように変えたらよいかについて、カードにかいている。 ・友達のおもちゃとの動きや作り方、材料の違いを比べながら、自分のおもちゃを繰り返し作り直している。 ・友達と一緒に試して遊びながら、遊び方の良い点や改良点を相談し合ったり、カードにかいたりして伝え合っている。</p> <p>あしたへジャンプ ・友達のできるようになったことや、役割が増えたことを聞き、自分でも似たようなことができるようになったことを話している。 ・友達から言われた、優しさや思いやりなど、内面の成長について、友達と話し合っている。 ・自分の成長について、周囲の人にインタビューして調べている。 ・調べてきたことを基にして、自分の成長についてまとめ、気が付いたり考えたりしたことを友達と伝え合っている。</p>
	<p>② 気付いたことや考えたことを表現し、伝え合う</p>

桃木タイム 第3学年の目指す 協働的な学びをする児童の姿

過 程		協働的に学ぶ児童の姿
追究する①	課題の設定	・学校の周りの自然、人、ものを知ることを通して、前橋のよさを同じように見付けて伝えることが、前橋のよさを発信する第一歩になるということが分かり、興味をもってテーマを選んでいる。
	情報の収集	・自分の選んだテーマの調べ方や資料を探したり、自分が得た知識を使って調べ方や資料のまとめ方を教えたりしている。
	整理・分析	・調べて分かったことを、視点を決めて整理・分類して前橋市の地図上にまとめている。
	まとめ・表現	・自分が考えた前橋市のよさについてまとめたことを報告し合って学級全体に伝えることを通して、前橋市のよさに対する見方や考え方を広げている。
追究する②	課題の設定	・前橋市のよさを発信するために、夏休み中にさらに調べてみたいことがらを選ぶ。 ・自然、公共施設、古い建物、公園、人などについて興味を深めテーマを選んでいる。
	情報の収集	・家庭に協力してもらい、現地に行ったり一緒に資料を探してもらったりして必要な情報を集めている。 ・同じテーマを選んだ児童同士で、助け合いながら調べたり、教え合ったりしながら、必要な情報を集めている。
	整理・分析	・調べて分かったことを、思考ツールを用いて分類し、自分がテーマとして選んだ前橋のよさの伝えたい順番を考えてまとめている。 ・知ったことを身近な地域と結び付けて見直そうとしている。
	まとめ・表現	・前橋市についてのよさを自分なりに振り返り、前橋の自分が選んだよさを誰に向けて伝えるか具体的に考えている。
追究する③	課題の設定	・発信する相手を明確にすることで、「前橋市のよさ」をポスターにするための明確な課題をもつ。
	情報の収集	・相手意識をもちながら前橋市のよさを発信しようと、今までの資料をさらに絞り込んでいる。 ・ポスター作りに必要な情報を、既習の学習から思い出している。
	整理・分析	・自分が最も伝えたいことをキャッチコピーにしたり、必要な写真や資料をそろえたりしている。 ・キャッチコピーをお互いに見合い、さらによいものになるように考えたりアドバイスをしたりしている。
	まとめ・表現	・キャッチコピーや写真、絵、情報などを効果的に使ってポスターを制作している。 ・制作したポスターを見合うことで、前橋や地域に愛着をもっている。

桃木タイム 第4学年の目指す 協働的な学びをする児童の姿

過 程		協働的に学ぶ児童の姿
課題の設定		<ul style="list-style-type: none"> 都道府県魅力度ランキングの群馬県の順位について学級全体で話し合うことを通して、群馬県のよさをみんなに知ってほしい、知らせたいという共通の課題と願いをもつ。
追究する①	課題の設定	<ul style="list-style-type: none"> 学級全体でそれぞれの札について知っていることを話し合ったり、上毛かるたを分類したりすることを通して、群馬のよさを見付けることが群馬のよさを発信する第一歩になるということがわかり、興味をもって各自のテーマを選んでいる。
	情報の収集	<ul style="list-style-type: none"> 同じテーマを選んだ児童同士で調べ方や資料を協力しながら探したり、自分が得た知識を使って調べ方や資料のまとめ方を考えたり教えたりしている。 外部講師から学ぶことを通して、自分たちの知らない群馬県のよさを知るとともに、自分たちも群馬県民としてよさを伝えたいという思いを強くしている。
	整理・分析	<ul style="list-style-type: none"> 集めた資料を友達と共有したり、足りない資料を補ったりして資料を集めている。 自分たちで調べたことを話し合いながら思考ツールを用いて分類し、自分が選んだテーマに関わる群馬県のよさと根拠を考え、4つまたは6つにまとめている。
	まとめ・表現	<ul style="list-style-type: none"> 自分達が考えた群馬県のよさと根拠を分かりやすく表現しようと友達と教え合いながらフィッシュボーンにまとめ、発表することで、情報や意見を共有している。
追究する②	課題の設定	<ul style="list-style-type: none"> 発信する対象、発信方法、発信の場を班や学級、学年全体で検討・話し合いをすることを通して、自分たちにとって実現可能で、効果的な配信方法を選んで製作、発信するという課題をもつ。
	情報の収集	<ul style="list-style-type: none"> 発信する対象、発信方法、発信の場について情報や資料を分担しながら集める。
	整理・分析	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの長所と短所を、思考ツールを使いながら話し合い、実現可能で、対象にとって分かりやすい発信方法を検討し、最善の方法を決定する。
	まとめ・表現	<ul style="list-style-type: none"> 班ごとに協力しながら、選んだ発信方法で、効果的な内容となるようキャッチコピー、記事、写真選定等を考え、製作に取り組む。 製作途中で、学年全体で検討会を開き、自分たちの作品がよりよいものになるよう具体的な改善策を出し合う。 改善策を基に、各班で協力しながら作品を完成させ、発信することを通して、協働して学ぶよさを感じている。

桃木タイム 第5学年の目指す 協働的な学びをする児童の姿

過程	協働的に学ぶ児童の姿	
追究する①	課題の設定	<ul style="list-style-type: none"> ・「環境」とは？を出発点とし、自分たちの身の周りに広がる自然環境に目を向けている。 ・幼少期より慣れ親しんできた桃ノ木川に焦点を当て、川の働きや役割・水をめぐる問題について、興味をもちテーマを選んでいる。
	情報の収集	<ul style="list-style-type: none"> ・同じグループの児童同士で、助け合いながら調べたり、教え合ったりしながら、必要な情報を集めている。
	整理・分析	<ul style="list-style-type: none"> ・調べて分かったことを、思考ツールを用いて整理分類し、自分たちがテーマとして水をめぐる問題や生活の仕方についてまとめている。 ・グループの友達と協力して足りない資料を補ったりそろえたりしている。
	まとめ・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・川の働きや役割、水をめぐる問題を、分かりやすくゲートルスライド等にまとめ、交流し合うことを通して、水に対する見方や考え方を広げている。
追究する②	課題の設定	<ul style="list-style-type: none"> ・桃ノ木川の水の調査を行った環境教室、桃ノ木川を愛する会の方の講話などの経験を通して、この豊かな水資源を守っていくために、自分たちに実践できそうなことや新たに調べなければいけない課題を見つけている。 ・実践活動計画や追求課題について、グループで話し合いを行い、実践する内容やテーマを設定している。
	情報の収集	<ul style="list-style-type: none"> ・同じグループの児童同士で、助け合いながら活動方法を調べたり、協力し合ったりしながら、実践活動を行い、必要な情報を集めている。
	整理・分析	<ul style="list-style-type: none"> ・グループでの実践活動や「まえばし環境家族」への取組を振り返り、その効果や方法の見直しを行い、新たな課題等を整理分析し、自分たちが最も伝えたいことについてまとめている。 ・友達と協力して足りない資料を補ったりそろえたりしている。
	まとめ・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・実践活動の報告会を通して、水資源の大切さやよりよい生活の仕方について気づき、それを身近な人にも伝えたい、実践してもらいたいという思いや願いをもっている。
追究する③	課題の設定	<ul style="list-style-type: none"> ・実践活動の経験を活かし、その活動を身近な人にも広げ、みんなで協力して取り組んでもらおうという課題をもっている。 ・水に関する意識を調査するために、グループで話し合いを行い、テーマやアンケートを設定している。
	情報の収集	<ul style="list-style-type: none"> ・提案する対象、方法、場について、資料や情報を集めている。 ・桃木小の児童に水に関するアンケート調査を行い、児童の実態の情報を得ている。
	整理・分析	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート調査の整理分析を行い、伝えたい学年と伝えたい内容を明確にし、効果的な伝え方や発信方法などを考えている。 ・友達と協力して足りない資料を補ったりそろえたりしている。
	まとめ・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなに伝えたい、広めたい情報を精選し、グループで協力しながら、選んだ発信方法で、効果的な内容となるようにまとめ、交流・発信し合うことを通して、豊かな水資源を守っていくための実践力をさらに深めている。

桃木タイム 第6学年の目指す 協働的な学びをする児童の姿

過 程		協働的に学ぶ児童の姿
追究する①	課題の設定	・自分の興味のある職業について、本やタブレットを用いて調べることを通して、様々な職業の仕事のやりがいやつらさに興味をもっている
	情報の収集	・学級全体で「ミライのしごと一く」(nhk for school)の「ゲーム業界の仕事」「市役所の仕事」を視聴し、仕事のやりがいやつらさについてメモをすることを通して、メモの取り方や質問の仕方を学び、仕事のやりがいやつらさについて考えを広げている。
	整理・分析	・視聴したメモをもとに、各仕事のやりがいやつらさを座標軸に整理したものを見て全体で確認することを通して、仕事に対する見方・考え方を広げている。
	まとめ・表現	・「ミライのしごと一く」について、自分と同じ職業を選んで視聴した友達と、視聴した内容(その仕事に対して自分が考えたり感じたりしたこと・自分が考えた質問事項)について交流しあうことを通して、異なる考えについて学んでいる。
追究する②	課題の設定	・「夢をかなえるライフプランニング教室」で、設定された職業についての友達とのグループワークを通して、その職業にたどり着くまでの道筋を協力して考えている。
	情報の収集	・ゲストティーチャーの方の話から、その仕事についてのやりがいやつらさを学ぶことを通して、地域で活躍している人の思いを知り、自分の考えをもっている。
	整理・分析	・ゲストティーチャーの話聞いた感想を友達と交流することを通して、新たに気付いたことをクラゲチャートで蓄積している。 ・ゲストティーチャーの話からわかったやりがいやつらさをベン図にまとめることを友達と協力して行うことを通して、やりがいやつらさについて共通することなどに気付いている。
	まとめ・表現	・インタビューしたことをパンフレットやワークシートにまとめ、友達と読み合うことを通して、仕事についての見方、考え方を広げている。 ・ライフプランシートやわくわく夢プロジェクトパワーポイントの作成中にアドバイスしあうことを通して、よりよい作成に向けて主体的に取り組んでいる。 ・わくわく夢プロジェクトの発表をお互いに見合うことを通して、自分の夢や希望を持ち続けようとしている。

4 実践事例

(1)2学年 生活科 R4 実践事例

単元名 【 うごく うごく わたしのおもちゃ 】

ねらい・おもちゃをもっとよく動かしたいという気持ちを持ち、友だちと比べながら、動きを予測しておもちゃを改良する中で、自分が加えた工夫とおもちゃの動きとの間に関係性があることに気づき、繰り返し改良しようとする事ができる。

目指す姿

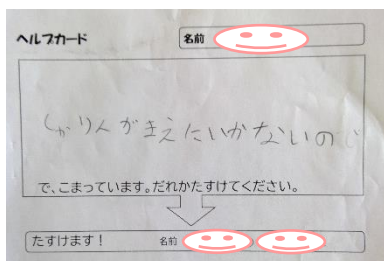
◎友だちの作ったおもちゃのように動かしたいという思いをもちながら、どこをどのように変えたらよいかについて、相談したり、考えたりして、自分のおもちゃをくり返し作り直している。

授業デザイン

板書や掲示の工夫

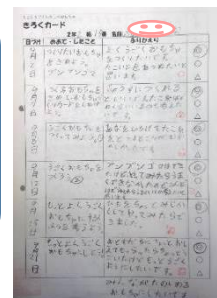


相談しやすいように、同じおもちゃを作ったもの同士や、似た作り方のおもちゃを作っているもの同士でグループを作る。



毎時間のふり返りカードの活用活動したことや次時への見通しをもたせる

ちがうおもちゃからのヒント
そのおもちゃを作ったことがある友だちからのアドバイス



授業のふり返り

成果

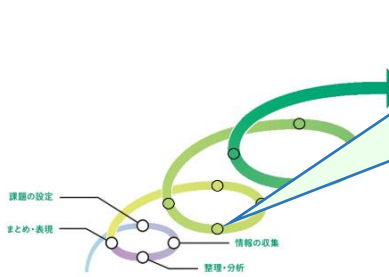
- ・一人ではこれ以上おもちゃを改善することができない児童が、友だちのアドバイスでよく動くおもちゃが作れた。
- ・「手伝ってほしい!」や「手伝いたい!」という児童の思いをかなえることができ、意欲につながった。
- ・おもちゃを改良することだけでなく、みんなが遊ぶときにももしろくする工夫なども考えられた。

課題

- ・気が付いたことを書くカードも用意したい。
- ・おもちゃの選択肢が多すぎて、アドバイスしあう友だちが見つけれない児童もいた。おもちゃの種類をもう少し限定した方がよかった。
- ・自分が加えた工夫とおもちゃの動きとの間の関係性に気付くことができた児童の感想を全体で共有する時間を設定したい。



【前橋市のよさを伝えよう】（探究課題：前橋市の理解と愛着）



本時のねらい

・調べてきた前橋市のよさを伝え合う活動を通して、前橋市のいろいろなよさを知ることができる。

目指す姿

◎同じテーマを選んだ児童同士で、助け合いながら調べたり、教え合ったりしながら、必要な情報を集めている。

授業デザイン

学習形態は
テーマごとの
グループ

前時に作った
4骨のフィッシュ
ボーンを
使用する。

同じグループの人と比較
して、調べた内容で同じこ
とや違うことがあること
を知る。

自分とは違う内
容を調べた子の
発表をメモす
る。

メモを取るた
めのワークシ
ートを使用す
る。

友達の見つけた前橋市の
よさを聞いて、考えたこ
とについて振り返り、次
時の活動につなげる。



実践の成果と課題

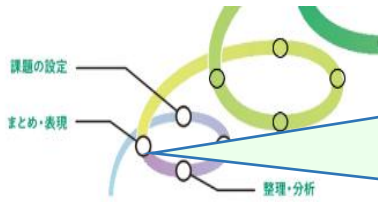
成果

- ・同じグループの友達と比較検討する活動を通して、自分の調べていたことが前橋のよさにつながるかどうかを認識できた。
- ・自分にもっと必要な情報は何か知ることができた。

課題

- ・メモ(フィッシュボーン)を元に友達に伝える活動に慣れていないため、練習が必要だった。
- ・前橋市のよさにつながる理由が曖昧な児童がいたため、本当にその情報が前橋市のよさにつながるか声をかけ、再考させる。

(3)4学年 総合 R4 実践事例
【群馬県のよさを見つけよう】 (探究課題：群馬県の理解と地域との関わり)



本時のねらい

・群馬県のよさを、思考ツールを使ってまとめたものを**友達と助言し合**ってよりよさが伝わりやすい表現にする活動を通して、学年全体に共有するための資料を考えることができる。(まとめ、表現する力)

目指す姿

◎本当に伝えたいことをわかりやすく伝えるために、**班の友達と助言し合いながら**、よりよい方法を考え、表現している。

授業デザイン

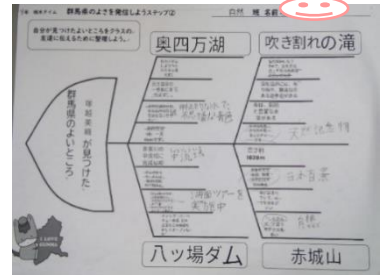
学習形態は内容が分かる調べ学習と同じ班

- ・よさや根拠の表現力には個人差がある。
- ↓
- ・表現方法を工夫するために、班、または他の班の友達と助言し合う。(協働的な学び)

整理分析で使ったフィッシュボーン(4骨)を発表でも使用する。

試行錯誤する推敲にはジャムボードは使用しない。

フィッシュボーン(ジャムボードをスクショ提出)
 ↓
 印刷(教員)
 ↓ 本時へ
 推敲(班)
 本人が鉛筆で修正
 ↓
 次時へ



次時：ジャムボード修正
 →発表練習 → 発表へ

実践の成果と課題

成果

- ・文章表現することが得意な児童は、早めに自分の文章を修正し、その後、率先して友達の所へ行き、文章について助言する姿が見られた。
- ・必要なことを選択したり文章を書いたりすることが苦手な児童は、進んで友達の助言を受け入れ、文章を修正する児童が多かった。
 →各自発表へ向け分かりやすい表現に近づけることができた。
- ・修正をジャムボードでなく印刷物を使用したのは時短につながった。




課題

- ・文章表現が苦手な子が多いため、時間がかかった。書いたり推敲したりする時間を設定し、力を付けさせたい。
- ・自分から「手伝ってほしい。」と言えない児童がいる。その児童と助言できる児童への手立てを工夫したい。

(4)6学年 総合 R4 実践事例

【わくわく夢プロジェクト】（探究課題：仕事のやりがいやつらさを知ろう）



本時のねらい
 ゲストティーチャーのお話や身近な人から聞いた「仕事のやりがいやつらさ」についてベン図で整理・分析し、友達と分かったことや感想を交流し合うことで仕事のやりがいやつらさを理解している。

目指す姿（友達と考えを協働的に交流することで、仕事のやりがいやつらさを理解している。）

◎ゲストティーチャーや身近な人の話からわかった「やりがい」や「つらさ」をベン図にまとめることを友達と協力して行うことを通して、「やりがい」や「つらさ」について共通することなどに気付いている。

授業デザイン

<p>思考ツール グーグルクラスルームに配信して活用。(班は3~4人)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベン図 (班ごと) ・意見貼り付けボード (クラス全体) 	<p>学習形態</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人や班で、前時をふり返り、自分の考えをボードに貼る。 ・ボードを見ながら意見交流をする。 	<p>振り返り 地域のゲストティーチャーのお話と自分でインタビューした仕事のお話は共通点が多いことを確認する。</p>
--	--	---

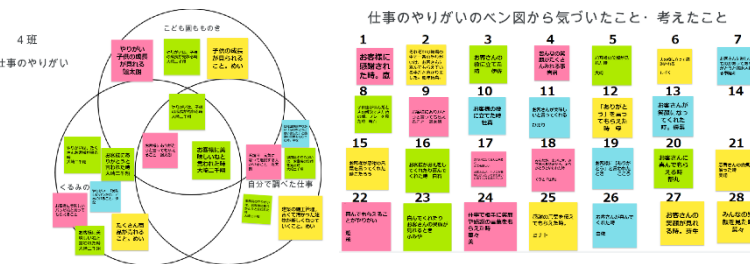
実践の成果と課題

成果

- ・やりがいは、「お客に感謝されたとき」つらさは「失敗したとき」、「お客に迷惑をかけたとき」ということに多くの児童が気付くことができた。
- ・自分の意見をボードに貼ることで、一目で友達の意見どうしを比較することができた。

課題

- ・「やりがい」や「つらさ」の共通点に気付くことができない児童がいた。
- ・ボードを見て、自分でしっかり考えずに友達の意見に流されてしまう児童がいた。
- ・友達の意見が一目でわかるため、交流が深まりにくかった。



(5) ICT 研修

Google Jam board について

Google Jam board (ホワイトボード) というとても便利な良いソフトが無料で公開されています。Jam board には、Web 版 (教師機に入っているもので、すべての機能が使える) とアプリ版 (児童機に入っている iPad のアプリで一部の機能だけが使える) があり、見た目も違ってきます。

そこで、6月17日の1回目の校内 Google Jam board 研修では、基本的な使い方を全員で研修しました。これで今年度本校に来られた先生方に Google Jam board の使い方に慣れてくれるであろうとの感触を得ました。

7月26日の2回目の校内 Google Jam board 研修では、Web 版とアプリ版の違いについて研修しました。画像やテキストの入れ方や付箋の入れ方、スクリーンショットの教師機での撮り方 (画像をタブレットに表示しておいて、電源と隣のボタンを同時に押すとスクリーンショットが撮れます。)、児童機でのスクリーンショットの撮り方 (画像を iPad に表示しておいて、ホームボタンとサイドボタンを同時に押すとスクリーンショットが撮れます。) などを研修しました。

さらに、動画や音楽の取り扱いはアプリ版ではできず、Web 版の Google スライドでなければならないことを研修しました。そして、共有ファイルとして配るのではなく、そのファイルをコピーしてあげるという配り方でないと音楽ファイルをそれぞれに聞くことができないことも伝えました。

共有の仕方についても①「生徒がファイル閲覧できる」、②「生徒がファイルを編集できる」の2つは先生のファイルであり、③「各生徒にコピーを作成」は生徒に渡すファイルの違いがあるため、注意を要することを研修しました。

Google Jamborad と Google スライドの違い	
Google Jamborad	Google スライド
Google が無料で配っているホワイトボードです。	マイクロソフトのパワーポイントの Google 版です。ちなみに、ワード・エクセル・パワーポイントでセットで30284円/1台です。
20ページまで作れます。	メモリーが許す限り何ページでも作れます。
絵や写真やテキストや付箋が貼り付けられます。絵や写真はスクリーンショットを撮って貼り付けます。(画面と曲は別窓が働いたため、図が付けられません。)(どちらのアプリでも、絵や写真はWebにあるものをそのまま貼り付けると、容量が大きすぎて動かなくなってしまうことがあります。そのため、スクリーンショットをとることによって容量をおさえる効果があります。)	絵や写真やテキストや動画や曲が貼り付けられます。絵や写真はスクリーンショットを撮って貼り付けます。
1つの先生のファイルを共有できます。	1つの先生のファイルを共有できます。
1つ先生がファイルを作るとそれを人数分自動で作って配布 (くれちゃいます) 回収もできます。それをPDFにしてもう一度返却もできます。	1つ先生がファイルを作るとそれを人数分自動で作って配布 (くれちゃいます) 回収もできます。それをPDFにしてもう一度返却もできます。
動画や曲はくれちゃう機能を使ってみんなに配ってあげちゃいます。	

(子供のiPadに入っている) アプリ版 Jamborad	(先生のタブレットに入っている) Web版 Jamborad
iPad でしか動作できない	Windows PC でも iPad でも MAC でも動作可
画面がすっきりしていて子供が余計なことをしにくい	アプリ版には無い機能がすべて使える。先生方のタブレットはこれです。
背景を設定できない "背景"とは、画面に表示されているが、編集できない文字や記号や絵のこと	背景が設定できる
iPad の機能の "便利な描画ツール" が使える ①手書きで書いたものが勝手に text に変わる ②手書きで書いた図形が勝手に円や四角形や円弧になる ③手書きで書いた図形が AutoDraw によって一致する候補のものに変わる	Windows 版にはそのような機能はありません。

Jam board 教員の画面操作

PDFで全てのボードを保存
開いているボードをPNGで保存
「無題のJam」を削除
「無題のJam」のコピーを作成

Jam board 教員の画面操作

図の補足。
ボードは最大20枚まで作成可能。

- ペン
- 消しゴム
- カーソル
- 付箋
- 画像の挿入
- 図形の挿入
- テキストボックス
- レーザーポインタ

Jam board 子どもの画面操作

カーソル: 後述する図形や、付箋を移動する際に使用。

- ペン
- 消しゴム
- カーソル
- レーザーポインタ
- 次項に記載

Jam board 子どもの画面操作

- 付箋の挿入
- google で検索した画像を挿入
- ドライブに保存したものを挿入
- iPad のカメラで撮影したものを挿入
- iPad に保存した画像を挿入
- 絵文字を挿入

Jam board 子どもの操作画面

補足
便利な描画ツールについて、
子どもたちのタブレットでのみ、フリーハンドで書いたものを変換するオートロウ機能を利用できます。
左から、文字・記号・絵を自動変換できます。

Jam board 子どもの操作画面

補足
前項のペンをタップすると右のような画面に切り替わる。この画面で描くペンの質感・色を 変更できる。
また、便利な描画ツールについて、次項より記載。

桃木小 思考ツール分類一覧表

<p>イメージマップ (ウェビング)</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・アイデアを出す ・広げる ・関係づける ・関連づける 	<p>ベン図</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・比較する ・分類する ・整理する 	<p>くま手チャート</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・アイデアを出す ・広げる ・分類する ・多面的に見る 	<p>Y/X チャート</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・多面的に見る ・多角的に見る ・アイデアを出す ・焦点化する
<p>マトリックス</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・分類する ・整理する ・比較する ・多面的に見る 	<p>ステップチャート</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・順序立てる ・計画する ・構造化する ・要約する 	<p>同心円チャート</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・広げてみる ・変化をとらえる ・関連付ける ・推論する 	<p>座標軸</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・比較する ・分類する ・位置づける ・整理する
<p>クラゲチャート</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・理由づける ・関係づける ・要約する 	<p>マンダラチャート</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・広げる ・深める 	<p>コンセプトマップ</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・関連付ける 	<p>ピラミッドチャート</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・焦点化する ・構造化する
<p>フィッシュボーン</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・分析する ・理由づける ・焦点化する ・多面的にみる ・構造化する ・説明の手助け 	<p>PMI (いいところ・だめなところ・おもしろいところ)</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・多面的にみる ・評価する ・判断する ・意思決定する 	<p>KWL (知ってる・知りたい・学んだ)</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・焦点化する ・計画する ・見通す ・ふり返る ・整理する 	<p>データチャート (情報整理表)</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・理由づける ・分類する ・分析する ・整理する

生活科学習指導案

令和4年11月4日 5校時
1年2組 指導者 迎田 有希
場所 1年2組教室

【授業の視点】

協働的に交流しながら身近な自然を利用しておもちゃを作るために、グループを作ったり意図的な声かけをしたりしたことは、有効であったか。

- I 単元名 大単元「たのしいあきいっぱい」 小単元「あきのおもちゃをつくろう」
(5)季節の変化と生活 (6)自然や物を使った遊び

II 考察

1 学習指導要領上の位置付け

- (5)身近な自然を観察したり、季節や地域の行事に関わったりするなどの活動を通して、それらの違いや特徴を見付けることができ、自然の様子や四季の変化、季節によって生活の様子が変わること気付くとともに、それらを取り入れ自分の生活を楽しくしようとする。
(6)身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりするなどして遊ぶ活動を通して、遊びや遊びに使う物を工夫してつくることができ、その面白さや自然の不思議さに気付くとともに、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとする。

2 単元について

本単元では、秋の自然を扱い、季節の違いや特徴に気付いたり、秋の自然を生かして遊びや遊びに使う物を工夫してつくったり、身近な自然を取り入れ生活を楽しくしようとする学習を設定した。その価値は以下の通りである。

《単元を通して資質・能力を育成する上で大切にすること(活動や体験の価値)》

ア(知識及び技能の基礎)

・秋の自然と関わる活動を通して、四季の変化、生活の様子が変わること、またそれを生かした遊びや遊びに使う物を工夫してつくることの面白さや自然の不思議さに気付くこと。

イ(思考力、判断力、表現力等の基礎)

・秋の自然と関わる活動を通して、身近な自然の違いや特徴を見付けたり、遊びや遊びに使う物を工夫してつくったりすること。

ウ(学びに向かう力、人間性等)

・秋の自然と関わる活動を通して、身近な自然を取り入れ、自分の生活を楽しくしようとしたり、みんなと楽しみながら遊びを創り出したりすること。

この学習は今後、2年の、「うごく うごく わたしの おもちゃ」の学習へ発展する。

3 本単元に関わる児童の実態

(1) これまでの学習

児童は、校庭や公園を探検して春や夏の自然を観察したり、発見したりしてきた。また、友達と観察し合う楽しさを味わっていた。生き物を発見する中で、友達と会話を通して発見した場所や見つけ方等を伝え合っていた。そして、さらにいろんな自然を探したいという意欲を持っている。秋の自然を探すことも意欲的で、それを生かして遊ぼうという意欲がみられた。

(2) 本単元に関わる児童の実態

(知識及び技能の基礎)

・校庭や公園を探検して、春や夏の生き物や植物など、自然の違いに気付いている。しかし、それを遊びに発展させる様子は見られなかった。

(思考力、判断力、表現力等の基礎)

・自然の物を手にしたり、探したりすることが好きで熱中できる児童が多く、休み時間には、毎日植物の世話をしたり、雨上がりにいる生き物と触れ合う様子が見られた。

(学びに向かう力、人間性等)

・バッタやトンボ等の季節に応じた生き物を探すときに、友達と場所を教え合ったり協力し合ったり見せ合ったりして楽しく活動できる。

・タブレットを使って自然の様子を写真に撮ったり友達に伝えたりすることができる。

・自然の物を使って遊ぶことは、あまり経験がない児童もいるが、友達の様子を見たり遊びのヒントを与えたりすると関心が高まり挑戦しようとする。

III 目 標

秋の自然を見付けたり遊んだりする活動を通して、秋とその他の季節との違いや特徴を見付けたり、遊びや遊びに使う物を工夫してつくったりして、秋の自然の様子や夏から秋への変化、それを利用した遊びの面白さに気付くとともに、季節の変化を取り入れ自分の生活を楽しくしたり、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとしたりすることができるようにする。

IV 単元の評価規準

評 価 規 準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①自然の様子や特徴から夏から秋の移り変わりに気付いている。 ②秋の自然はいろいろな遊びに利用できることや、遊びを工夫したり遊びを創り出したりすることの面白さに気付いている。 ③自然の中のきまり、自然の事象の不思議さに気付いている。 ④道具や用具の準備や片付け、掃除、整理整頓をしている。 ⑤自分たちの生活は、季節によって様子が変わること気付いている。	①四季の自然や季節の特徴を確かめながら、身近な自然を楽しんでいる。 ②楽しみたい遊びを思い描きながら秋の自然の中から遊びに使う物を選んでいる。 ③比べたり、たとえたり、試したり、見通したりしながら、遊びを楽しんでいる。 ④遊ぶ相手のことを想像して、遊びの約束やルールなどを工夫しながら遊んでいる。	①秋の自然を楽しみたいという思いや願いをもって、秋の自然と触れ合おうとしている。 ②秋の自然の様子や特徴に応じながら、それらと関わろうとしている。 ③友達のよさを取り入れたり、自分との違いを生かしたりして、遊びを楽しもうとしている。 ④みんなで遊ぶと、生活が楽しくなることを実感し、毎日の生活を豊かにしようとしている。

V 指導方針

<であう>

- ・秋と夏の移り変わりに気付かせるため、夏の様子を教室に掲示しておく。<知>
- ・どんぐりや松ぼっくり、落ち葉等を使った遊びや遊ぶ道具について、イメージしやすくするために、関連する本を掲示したりおもちゃの例示を展示したりしておく。<思>
- ・みんなで同じおもちゃを作ることによって、作りたいおもちゃの想像を広げたりアドバイスの仕方を学習したりし、自分のおもちゃ作りに生かせるようにする。<思>
- ・季節の変化が分かるようにどんぐりや松ぼっくり、落ち葉等の具体物を教室に置き、自由に触れられるようにすることで関心を高め、気付きの手立てとする。<主>

<はたらきかける>

- ・秋の自然物は、いろいろな遊びに使いそうであることに気付かせるために、十分に触れ合ったり遊んだりする時間をとり、自分の作りたいおもちゃに適した自然物を決められるようにする。<知>
- ・自分でおもちゃを作る際は、道具や材料のコーナーを作り、みんなで一緒に使うものが整頓されていると、次の人が気持ちよく使えることに気付かせる。<知>
- ・材料や道具が不足する場合や作り方に悩んで困った場合に備えて「おたすけコーナー」を設け、誰でも自由に使えるようにし、友達と協働しながらおもちゃを作ることができる環境を整える。<思>
- ・「つくる→遊ぶ→振り返り・工夫する→つくる…」という一連の流れを確認し、試しながら比べ、工夫しておもちゃを作れるようにする。<思>
- ・関心が同じ友達とアドバイスをしながら協働的に活動ができるように、材料の配置の工夫をしたり、様子を見取り意図的な声かけしたりする。<思>
- ・作りたいおもちゃが作れたり、さらに工夫ができたりに一人一人の様子を見取り、友達の様子を参考にさせたり言葉がけを工夫したりして意欲の継続を図る。<主>

<ふりかえる>

- ・隣のクラスも秋のおもちゃを作っていることを伝え、隣のクラスが作っているおもちゃの写真を見せ、一緒に遊んでみたいという意識をもたせる。<主>

VI 指導と評価の計画 (全21時間計画、本時は15/21 太枠部分小単元)

過程	時間	○ねらい めあて	☆振り返り (意識)	評価項目(評価方法)		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
であう	1 2 3	○校庭に出かけ、秋の自然物の特徴を探し、色や形、においなど、秋の校庭の自然の様子と、夏の自然の様子との違いに気付くことができる。 あきをさがそう。	☆夏にはなかったどんぐりや落ち葉があることがわかった。 ☆秋のもので遊んでみたいな。	・知① (行動、発言)	・思① (発言)	・態① (行動、発言)
	4 5 6	○身近な自然の様子を観察したり、自然物を利用して遊んだりしながら、夏との違いを探し、自然の様子が、夏から秋になって変化していることに気付くことができる。 もっとあきをさがそう。	☆葉っぱの色が、夏に来た時と違う。 ☆夏にはいなかった虫がいたよ。	○知① (発言・ワークシート)	○思① (発言・ワークシート)	○態① (行動、発言)
はたらきかける	7 8 9	○秋の自然と関わりたいという思いをもち、どんな遊びになりそうかを想像しながら、遊びに使う自然物を選び出し、試行錯誤しながら秋の自然を生かした遊びを楽しむことができるようにする。 はっぱやみであそぼう。	☆秋のものを使うと、飾りやおもちゃができる。 ☆秋のものを使って遊ぶと楽しいな。	・知② (行動、発言)	・思② (行動、発言)	○態② (行動、発言)
	10	○秋の自然と関わったことを振り返り、夏と秋の遊びを比べ、季節によって周りの様子が変わることに気付き、季節を生かして遊ぶことに楽しさを感じて、これからの季節の遊びを楽しもうとすることができるようにする。 あきのことをつたえよう。	☆自分が遊んだことを教えたい。 ☆何をして遊んだかわかった。 ☆もっと秋のものを集めておもちゃを作りたい。	○知② (発表・ワークシート)		
	11 12	○クラスで集めた自然物を試しながら比べて材料を選び、おもちゃを作りながらアドバイスの仕方を学習したりし、自分のおもちゃ作りに生かせるようにする。 あきのおもちゃをつくろう。	☆丸いどんぐりのほうがよく回るな。 ☆友達と一緒に考えると、いろんなことが思い付くな。		・思② (行動、発言)	
	13	○自然物を比べたり、試したりしながら、自分の作りたいおもちゃを思い描くことができる。 つかいたいざいりょうをえらぼう。	☆同じどんぐりでも、大きさや形が違うな。 ☆ペンで色を付けるといいかも。		○思② (行動、発言)	
	14 ⑮ 15 16	○自然物を選んでおもちゃを作り試しながら、自分の作りたいおもちゃに適した自然物を決めている。 たのしくあそべるおもちゃをつくろう。	☆パリパリした葉より柔らかい葉を使いたいな。 ☆マラカスにいろんな形のどんぐりを入れると、音が変わったよ。	○知③ (行動、表現物、発言) ○知④ (行動)	○思③ (行動、表現物、発言)	○態③ (行動、表現物、発言)
17	○自分が作ったおもちゃをクラスの人に紹介する。 おもちゃのしょうかいをしよう。	☆おもしろいおもちゃがたくさんあったな。 ☆もっといろんなおもちゃが知りたいな。			○態④ (行動、表現物、発言)	
ひりかえる	18 19 20 21	○みんなが楽しく遊べるように、計画を立て、あきまつりに来てもらえるような工夫を考えることができる。 「あきまつり」をかいさいしよう。	☆楽しんでくれるといいな。 ☆秋のものを使って遊ぶと、楽しいな。	○知⑤ (行動、発言)	○思④ (行動、ワークシート)	・態④ (発表)

Ⅶ 本時の学習(本時は15/21)

1 ねらい

作ったおもちゃの材料を変えたり比べたりして試しながら、おもちゃを作ることを楽しんでいる。

2 準備・資料

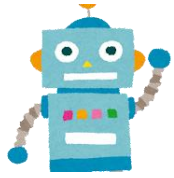
教師:これまでに児童が作ったおもちゃ ふりかえりカード

おもちゃを作る材料(どんぐり・松ぼっくりなど) 道具(きり・ボンドなど)

児童:おもちゃを作る材料 道具(はさみ・ボンド・ペンなど)

3 本時の展開

学習活動と子供の意識	時間	指導上の留意点・支援	評価項目
<p>1本時のめあてを知る。 ○「つくる→遊ぶ→振り返り・工夫する→つくる…」という一連の流れを確認する。</p>	10	<p>○「つくる→遊ぶ→振り返り・工夫する→つくる…」という流れを確認し、本時の学習につなげる。 ○おもちゃが完成したら遊んで試してみるよう伝え、活動に見通しをもたせる。 ○分からなかったり困ったりしたら、友達に聞いていいことを伝え、協力的な雰囲気作りをする。</p>	
<p>あきのおもちゃを くふうして パワーアップさせよう</p>			
<p>2おもちゃを作る。 ○協力しながらおもちゃを作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1人だと難しかったけれど、一緒に作ると上手にできた。 ・どんぐりの中でも、大きいどんぐりと小さいどんぐりがある。 <p>○おもちゃが作れたら、遊んで試し工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達のけん玉がなかなか入らないのはなぜだろう。 ・友達のおもちゃがおもしろそうだから作り方を聞いてみようかな。 ・紙コップに葉っぱを貼りたいけれど、すぐに破れてしまうな。 	25	<p>○関心が同じ友達とグループを作り、アドバイスをしながら活動ができるように、声かけをする。 ○おもちゃ作りを教師も楽しみ、秋の楽しさを伝えていく。 ○安全面に配慮が必要な道具は、教師の目が届く場所で行うように指導する。 ○材料や道具が不足する場合に備えて、「おたすけコーナー」を設け、自由に使えるようにしておく。 ○話し合いながらおもちゃを作るよう促し、友達の気付きを自分のおもちゃ作りに生かせるよう、声かけをする。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>評価項目 思考判断表現③(行動発言・振り返り) 作ったおもちゃの材料を変えたり比べたりして試しながら、おもちゃを作ることを楽しんでいる。</p> </div>
<p>3気付きをみんなで共有する。 ○おもちゃを作ってみて、気付いたことを伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんぐりを増やしたら、音が変わった。 ・友達に、作り方を教えてもらえて嬉しかった。 	5	<p>○おもちゃを作ってみて「困ったところはあったか」「友達と作ってみてどうだったか」を問いかけ、気付きの手助けとする。 ○友達と協働して作る様子が見られたら称賛し、友達と工夫していくことのよさを実感させる。</p>	
<p>4本時の学習の振り返りをする。 ○発表したことを振り返る。 ○「ふりかえりカード」に記入する。</p>	5	<p>○活動を自己評価させることで振り返りとし、次に頑張りたいことや、やってみたいことが意欲につながるように全体で発表させる。</p>	



わたしの おもちゃ



がつ 日にち() なまえ _____

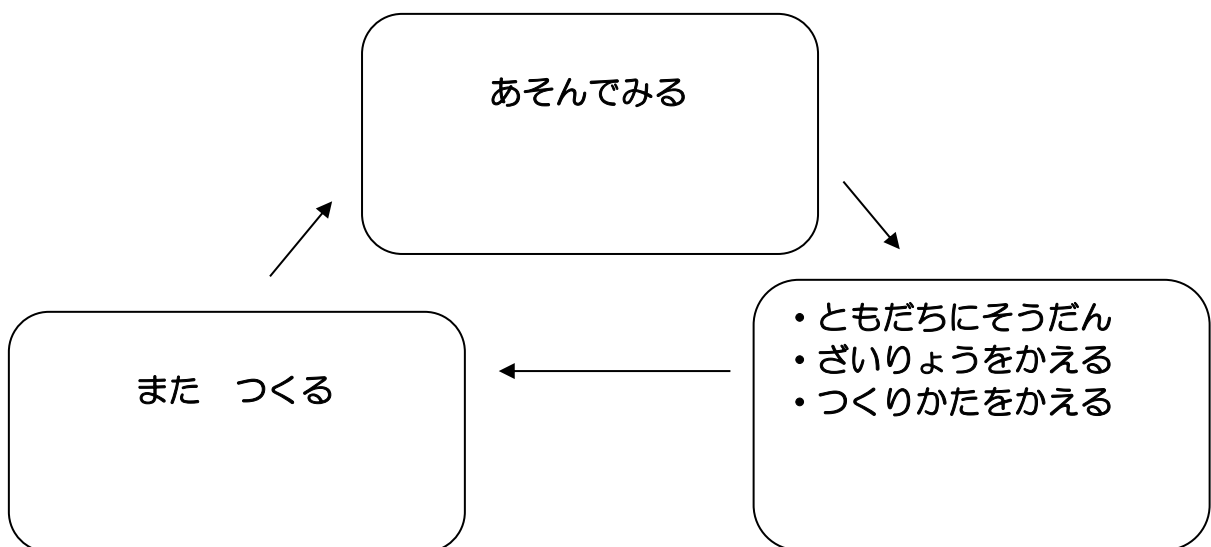
①きょうのめあて

めあては できたかな。



②じぶんがつくった おもちゃのなまえ

③つぎのじかんは なにをする？



総合的な学習の時間学習指導案

令和4年11月4日 5校時
5年2組 指導者 須藤あや
場所 図工室

【授業の視点】

対象学年を意識して発信する方法を選ぶために、思考ツールを用いて比較検討する活動を取り入れたことは有効であったか。

- I 単元名 守ろう！豊かな水資源！～save the water～
小単元 水資源を守るために、発信しよう

II 考察

1 全体計画上の位置付け

育成する資質能力

ア(知識及び技能)

自然や環境を守りたいという意識や行動の変容は、環境を守ろうとする人々の思いや工夫取り組みについて探究的に学んだことによる成果であると気付く。

イ(思考力、判断力、表現力等)

他教科で培ってきた表現力等を活用し、目的に応じて手段を選択し、情報収集やまとめを行うことができる。

ウ(学びに向かう力・人間性等)

地域との関わりの中で、自分たちにできそうなことを見付け、実践に移そうとする。

2 単元について

本単元では、身近な水資源やそこにある環境問題を扱い、自然保護や環境保全を追究する学習を設定した。その価値は以下の通りである。

《単元を通して資質・能力を育成する上で大切にすること(教材の価値)》

ア(知識及び技能)

身近な水資源やそこにある環境問題について調べたり、エコ体験を実践したりすることを通して、豊かな水資源を守ろうとする人々の思いや工夫、取り組みを理解することができる。

イ(思考力、判断力、表現力等)

水をめぐる環境問題に広く目を向けて課題を見出し、情報収集を行い、集めた情報を整理し、自分たちの考えにまとめ表現する。

ウ(学びに向かう力、人間性等)

地域との関わりの中で、自分たちにできそうなことを見付け、実践に移そうとする。

3 本単元に関わる児童の実態

(1) これまでの学習

児童は4年時に社会「わたしたちのくらしと水」の学習を通して、1日に使う水の量や使う水がどこから来ているのか、水をきれいにする仕組みなどについて学習し、水をきれいにするためには多くの時間と労力が必要になることに気付いた。

また、4年生の総合的な学習の時間では群馬の魅力を伝えるために、グループごとに分かれて調べ学習をし、パンフレットで情報をまとめるという活動を行った。多くの児童がインターネットを活用したり、パンフレットを集めたりして情報収集を行った。この活動を通して児童は、「班で協力してインターネットなどで情報を集めて、紙にうまくまとめられた。」「ほかの班の発表を聞いて、群馬のいいところが見つかった。」などの感想を持った。また、パンフレットにまとめるだけでなく、動画にしたいという意見もあり、本単元の発表方法へ発展していくと考えられる。

(2) 本単元に関わる実態

本単元を学習するにあたって実施したアンケート調査の結果や実態は、以下のとおりである。

【知識及び技能】

節水や、水を汚さないために、どんなことができるか。	<ul style="list-style-type: none">・食べ物を残さずに食べる。・水を大切に使う。・水を出しっぱなしにしない。・川や海にごみを捨てない。・シャワーをこまめに止める。・油を水道に流さない。・食べ残しをそのまま流さない。
---------------------------	---

児童は1学期から水に関する環境問題について学習しており、世界には水不足や水質汚染、海洋性プラスチックが与える生き物への影響など、様々な問題があることを実感している。また、アンケートから分かる通り、どんなことをすれば水資源を守ることにつながるのかも分かっている児童が多い。

また、4年生の総合的な学習の時間では、群馬県の魅力についてタブレットを活用して情報収集を行い、パンフレットにまとめた経験もあり、情報収集には慣れていて意欲的に調べ学習に取り組むことができる。しかし、集めた情報を比較や分析したりすることが苦手なので、必要な情報を提示したり、考えをまとめやすくする思考ツールを用いて学習を進めたりすることができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

節水や、水を汚さない工夫が必要だと思うか。	はい…26	いいえ…0
節水や、水を汚さない工夫をしているか。	はい…17	いいえ…9

アンケートの結果から、全員が節水や水を汚さない工夫が必要だと考えている。しかし、実際に節水や水を汚さない工夫を行っている児童は17名となっており、水資源を守るために具体的に行動、実践している児童は多くはない。必要感はあるが行動に移せていない状況が伺える。児童自身が考え行動する中で、課題解決に向かい、その方法を発信しようと思えるように、学習を進めていきたい。そのために、アンケート調査を各学年で行って問題を明らかにさせたり、「発表は直接教室を訪ねて行う」とゴールを明確にしたりして、意欲を高めることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】

総合の時間は好きか。	はい…24	いいえ…2
------------	-------	-------

〈理由〉

- ・色々な世界の問題を知ったりできるから。
- ・周りの子と相談して自分と違う意見が聞けるのが好きだから。
- ・自分で、わからない事を調べるから、分からない事が、分かるようになるから。
- ・タブレットなどを活用して、いろいろ調べることが好きだから。

以上のことから分かる通り、本学級の児童は、分からないことを自分で調べて分かるようになる嬉しさや、友達と話し合う楽しさを感じながら、意欲的に総合的な学習の時間に取り組んでいる。しかし、自分の意見を譲れなかったり、タブレット使用時に決まりが守れなかったりする場面も見られる。1年を通して、協働的に活動することや決まりを守ることによって得られる充実感を味わうことができるようにしていきたい。

また、夏休みに行った「まえばし環境家族、目指せエコマスター」の報告書を見ると、環境に興味があったり取り組んだ児童はクラスの1割ほどで、9割の児童は宿題として出されたからという理由で取り組んでおり、環境を守るために自分たちが行動することに対する意欲が高まっていない。環境を守っていくために自分たちが行動しなければならないという必要感をもちながら、学習に取り組むことが大切だと考える。

III 目 標

身近な水資源やそこにある環境問題について探究していく学習を通して、豊かな水資源を守る大切さについて理解し、自らの生活の中で実践したり、豊かな水資源を守るための方法を考えたり、学んだことをこれからの学習や生活に生かしている。

IV 単元の評価規準

評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①川の働きや役割、水をめぐる問題について探究していく学習を通して、自然保護や環境保全の大切さや人々の思いや工夫について理解している。</p> <p>②普段何気なく使っている水や水をめぐる問題について必要な情報を、ウェブサイトや本などの資料から収集している。</p> <p>③豊かな水資源を守りたいという意識や行動の変容は、環境を守ろうとする人々の思いや工夫、取り組みについて探究的に学んだことによる成果であると気づいている。</p>	<p>①川の働きや役割、水をめぐる問題について小さな疑問から課題を設定し、解決の見通しをもって活動計画を立てている。</p> <p>②普段何気なく使っている水や水をめぐる問題について必要な情報を、個々やグループの疑問や課題に応じて収集し、ワークシートに蓄積している。</p> <p>③豊かな水資源を守っていくために、たくさんの人に広めていく活動の計画と実践について、必要な情報を取捨選択したり、複数の情報を比較したり関連付けたりしながら、より良い方法を考えている。</p> <p>④伝える相手や目的に応じて自分やグループの考えをまとめ適切に表現している。</p>	<p>①川の働きや役割、水をめぐる問題について理解し、進んで課題解決に取り組んでいる。</p> <p>②自分とは異なる友達の考えも共有しながら協力して課題解決に取り組んでいる。</p> <p>③豊かな水資源を守っていくために学んだ方法や工夫をこれからの学習や生活に生かそうとしている。</p>

V 指導方針

「つかむ」

- ・身近にある川の環境について考えを広げることができるよう、ウェビング等の適切な思考ツールを用いる。
- ・川の働きや役割について、自信をもって考えをまとめられるように、個人の活動からグループの活動へと広げ意見交流する場を設ける。
- ・自然保護や環境保全、エコ活動への意識が深まるように、夏休みにはまえばし環境家族「目指せエコマスター」に取り組む。

「追究する」

- ・児童の考えや活動の感想、疑問などを振り返ることができるよう、考えを蓄積していくワークシートを用意する。
- ・話し合いの場面では、視覚的に意見をまとめられるように、Google ジャムボードやグループで見ることができる大きいサイズのワークシートを用いる。
- ・一人で課題解決することを困難と感じる児童も、意欲をもって学習に取り組むことができるように、同じテーマを選んだ者同士でグループを作り、協働的に学習を進めるように促す。
- ・水質汚染や水不足などが、自分たちの生活と結びついていることが実感できるように、桃ノ木川を愛する会の人にインタビューを行ったり、環境教室で水質検査をしたりする場を設定する。
- ・自分事として水に関する問題をとらえることができるように、校内の児童にアンケート調査を行い結果を考察する。
- ・アンケート結果から、課題解決に向けた追究活動の見通しをもつことができるように、グループやクラス全体で共有する活動を行う。
- ・グループの意見を発表する際には、困り感のあるグループも伝えたい情報を確実に伝えることができるように、話型を用いて発表するように促す。
- ・発表方法の選択や伝える内容のイメージがしやすいように、いつ、どこで、どんな形で発表するのかゴールのイメージを持たせる。
- ・必要感をもって課題の実践や発表ができるように、SDGsの6番目の目標が「安全な水とトイレを世界中に」であることを確認し、自分たちの行動が目標達成に役立つと感じさせる。
- ・伝える相手や目的に応じて、グループの考えを適切に表現するために、各グループの活動計画の発表会を行い、クラス全体としての課題を捉える。

「まとめる」

- ・学習を振り返る場面では、自分自身の成長を感じられるように、今まで行ってきた実践や発表内容を振り返る。
- ・発表に苦手意識がある児童も、自信をもって発表ができるように、まとめの話型を用意しておく。

VI 指導と評価の計画 (全70時間計画、本時は50/70)

過程	時間	○ねらい めあて	☆振り返り (意識)	評価項目(評価方法)		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
つかむ 川の環境について調べよう	1	○環境について改めて考えることで、関心を高め、単元の学習の見通しをもてるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">環境とはなんだろう？</div>	☆「環境」にはこんな広い意味があったなんて初めて知った。			
	1	○川について知っていることを書き出し、川を取り巻く環境について、視野を広げる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">川を取り巻く環境について調べよう。</div>	☆人間だけではなく、植物にも動物にも、川は大きな影響を与えているのだね。 ☆もっと詳しく調べたい。			○態① (WS・発言) 進んで調べ学習を行っている。
	4	○川の働きや役割について、グループで協力して調べ、発表する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">川の働きや役割を調べよう。</div>	☆川には大切な働きがあることが分かったから、大切にしていきたいな。	○知① (WS・発言) 川の働きや役割について理解している。		
追究する①水をめぐる問題について調べよう	2	○川を大切にするため、水をめぐる問題について、調べてみたい課題を見つける。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">水をめぐる問題について、調べてみたいテーマを見つけよう。</div>	☆普段何気なく使っている安全で豊かな水に、問題なんてあるのかな。			
	3	○自分が興味のある問題を選び、水をめぐる問題について調べる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">水をめぐる問題について調べよう。</div>	☆自分が調べたいことについて調べ、いろいろなことが分かった。	○知② (スライド) 必要な情報を集め、まとめることができる。	○思② (WS・ジャムボード) 水をめぐる問題について、必要な情報を収集し、ワークシートに蓄積している。	○態① 課題解決に向けて意欲的に活動している。
	5	○水をめぐる問題について、グループで話し合いを行い、役割を決めて調べて、Googleスライドにまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">自分たちのテーマについて調べて、まとめよう。</div>	☆世界には水不足で困っている国や安全な飲み水がない国があるなんて知らなかった。			
	2	○水をめぐる問題について、グループでまとめたものを、発表する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">水をめぐる問題について、発表しよう。</div>	☆いろいろな問題があることが分かった。 ☆図表や写真があると分かりやすいな。			

追究する② 私達にできることを実践しよう

2	<p>○まえばし環境家族「目指せエコマスター」への取り組みを振り返る。</p> <p>エコマスターへの取り組みを振り返ろう。</p>	<p>☆頭では分かっているけど、実行することは難しいな。</p> <p>☆どうすればいつでも取り組めるようになるかな。</p>			
3	<p>○SDGsとは何だろう。SDGsの「安全な水とトイレを世界中に」という目標について調べる。</p> <p>SDGsについて調べ、考えを広げよう。</p>	<p>☆日本は水に恵まれているけど、世界には困っている人がこんなに大勢いるのか。何とかしていかないと。</p>	○知② (WS)	必要な情報を集め、考えを広げることができる。	
2	<p>○児童文化センターへ桃ノ木川を持参し、グループで水質調査を行う。</p> <p>【環境教室】</p> <p>桃ノ木川の水を調べてみよう。</p>	<p>☆桃ノ木川は思っていたよりきれいだったから、この川を守っていききたい。</p>			
2	<p>○環境教室、桃ノ木川の水質調査を家族に報告し、これから実践したいことを家庭で考える。</p> <p>これからの実践を家族で話し合ってみよう。</p>	<p>☆豊かな水資源を守っていくために、家族や友達とも協力していききたいな。</p>			
1	<p>○桃ノ木川の自然を、環境を守っている人の話を聞き、考える。【桃ノ木川を愛する会】の方の講話</p> <p>桃ノ木川について、もっと知ろう</p>	<p>☆川をこんなに一生懸命守ってくれている人がいたことに改めて気付いた。</p>	○知③ (体験の様子)	桃ノ木川を守ってきた人々の思いや工夫について理解している。	
1	<p>○桃ノ木川の汚れの実態を調査したり、桃ノ木川が大切に守られていることを聞いたりして、水をめぐる環境問題を身近なものとしてとらえる。</p> <p>桃ノ木川はどのように守られてきたのだろうか。</p>	<p>☆身近にある桃ノ木川を守っていくために、ぼくら桃ノ木小のみんなで力を合わせていききたいな。</p>			
3	<p>○豊かな水資源を守っていくために自分たちにできることは何かを考えた。</p> <p>自分たちにできることを考えてみよう。</p>	<p>☆節水や水を汚さないために、自分たちには何ができるだろう。</p>	○知② (ワークシート)	必要な情報を集め、考えを広げることができる。	○思③ (ワークシート)
4	<p>○グループで活動計画を立て、自分たちにできることを実践する。</p> <p>活動計画を立て実践しよう。</p>	<p>☆自分は掃除のときにバケツを使ってぞうきんを洗っていたけど、どのくらいの方が節水を心掛けているのだろうか。</p>			
2	<p>○実践を振り返り、その有効性を検証する。</p> <p>実践を振り返り、その効果をまとめ、発表しよう。</p>	<p>☆自分たちの活動だけでは全然足りない。もっとたくさんの人に広げなければ。</p>			

追究する③ 水資源を守るために発信しよう	3	○桃木小の児童に環境に関するアンケート調査を行い、実態を把握する。 アンケートを作り、環境意識調査をしよう。	☆桃木小の児童の環境への意識を知りたいな。アンケートを作ろう。			○態① 課題解決に向けて意欲的に活動している。
	3	○アンケート結果からわかることと、これまでの実践から、提案したい学年を決める。 アンケート結果から、伝えたい学年を決めよう。	☆節水を意識しているけど、実際に節水できていない子も多いな。 ☆もっと、水を大切にしてほしい。いろいろな方法があるから伝えたい。			
	3	○アンケートの結果から、何を伝えたいのかを話し合って決める。 伝えたいことを、グループで考えよう。	☆低学年の児童に節水しなければいけない理由や方法を伝えたい。			
	2	○伝えたい内容を分かりやすく効果的に伝えるための方法を考える。 効果的な発信方法を考えよう。	☆動画にしたら低学年にもわかりやすく伝えられると思う。		○思④(G,ボード) 伝える相手や目的に応じて自分やグループの考えを表現する方法を考えている。	
	1 本 時	○伝えたい学年や伝えたい内容、そして効果的な発信方法を分析し、発信する方法を決める。 伝えたい学年にあった、発信方法を決めよう。	☆低学年の子供たちに、分かりやすく伝えるにはどうしたらいいだろう。		○思③(G,ボード) 伝えたい学年に定める活動の計画と実践について、情報を選択し比較検討したりしながら、方法を考えている。	
	10	○グループで伝えるため資料を作成し、発表に向けての準備を進める。 水資源を守る活動や工夫を伝えるための、発表の準備をしよう。	☆伝える順番を考えたほうがいいね。 ☆写真や動画で実際に行動したことを伝えよう。		○思④ (行動観察 発表資料) 複数の情報をまとめながら、発表準備をしている。	
	6	○中間検討会を開き、助言し合い、修正する。 まとめたことを発表して、助言し合おう。	☆みんなからもらったアドバイスを活かして、手直ししよう。		○思④ (発表) まとめたことを発表することができる。	
2	○伝えたい学年に提案をし、振り返ろう。 まとめたことを提案して、たくさんの人に伝えよう。	☆今日の発表で、たくさんの人に伝えられてよかった。				
ま し め る	2	○調べたことや、実践したこと、発信したことを振り返り、気付いたことや学習の成果を話し合う。 学習を振り返り、これからどう生活していくか、考えよう。	☆水を守るために、自分ができることがたくさんあるから、続けて実践していきたい。	○知③ (ワークシート) 今までの学びの成果に気付いている。		○態③ 豊かな水資源を守っていくために学んだ方法や工夫をこれからの生活に生かそうとしている。

Ⅶ本時の学習(本時は50/70)

1 ねらい

グループで思考ツールを使って比較検討する活動を通して、対象学年を意識した適切な発信方法を考えることができる。

2 準備・資料 思考ツール(座標軸) 話型プリント

3 本時の展開

学習活動と子供の意識	時間	指導上の留意点・支援	評価項目
<p>1. 導入 ○前時の学習を振り返り、本時のめあてを設定する。 ・ポスターなら教室や廊下に貼っておけるメリットがあったよね。 ・動画なら節水の方法が伝えやすいかもしれない。 ・いろいろな方法があったけど、どうやって1つに決めたらいいのだろう。</p>	5	<p>○本時のめあてを設定できるように、前時の学習を振り返る。 ○児童が意欲をもって学習に取り組むことができるよう、児童から言葉を引き出しつつ、めあてを提示する。</p>	
<p>めあて 伝えたい学年にあった、発信方法を決めよう。</p>			
<p>2. 展開 ○思考ツール(座標軸)を使いながら、どの方法が伝えたい学年に適しているか考える。 ・劇や紙芝居は低学年向きだよ。お風呂の水の再利用がどんなことでできるか絵で伝えると伝わりやすいよね。 ・スライドでより詳しく6年生に伝える方法が良いかもしれないね。</p> <p>○グループごとに対象学年を意識して発信方法を決定する。 ・1年生にポスターで発表するのは難しいかもしれないから、劇で発表することにしよう。 ・うがいの時の水の止め方を伝えたいからスライドでまとめながら動画を組み込もう。</p> <p>○話型に沿って、決まったことを発表する準備をし、発表する。 ・私たちの班は(1年生)に(お風呂の水を再利用してほしい)ということを1番伝えたいです。それを伝えるために(紙芝居)を使って発表します。理由は(紙芝居だったら1年生も楽しんでくれると思うし、絵でどんなことにお風呂の水を再利用できるか伝えられる)からです。 ・確かにその方法なら低学年にも伝わりやすいな。 ・いろいろな方法があって、対象の学年にも合っていて、楽しみだな。</p>	<p>15</p> <p>10</p> <p>10</p>	<p>○今までの学習で蓄積したデータを見ながら学習を進めるように声をかける。 ○座標軸を効果的に使うことができるように発信方法を横軸から配置し、そこから縦に動かすように指示を出す。 ○考える視点が分かるように、考えるポイントを黒板に示しておく。 ○困り感のあるグループには、各学年の実態を話しながら、どんなことに気を付けたらよいか考えるように促す。 ○座標軸の対象学年に適した、伝わりやすいものから選ぶように促す。 ○話し合いが進まないグループには、目的や対象を振り返らせながら、話し合いを進めるように声掛けを行う。</p>	<p>評価項目 思③(Googleジャムボード) 豊かな水資源を守っていくために、伝えたい学年に広めていく活動の計画と実践について、必要な情報を取捨選択したり、複数の情報を比較したり関連付けたりしながら、より良い方法を考えている。</p>
<p>3. 終末 ○個人で本時の振り返りを行うと共に次時への見通しをもつ。</p>	5	<p>○次時の活動を見通せるように、本時の振り返りや疑問を記録するように声をかける。 ○次時への意欲や本時の気づきにつながるように、振り返りを数人に発表させる。 ○今後の活動に意欲をもって取り組むことができるように、次時の学習内容を全体で共有する。</p>	

班

伝える学年を考えた発信方法(まとめ方)の決定

私たちの班は

年生

に

ということを1番伝えたいです。

それを伝えるために

を使って発表します。

理由は

だからです。終わりです。

IV 研究のまとめ

1 成果

(1)総合的な学習の時間全体計画の見直し

- ・学年ごとに探究課題の解決を通して育成する具体的な資質・能力を入れた全体計画を作成したことは、教材のもつ特性に適した探究課題は何かを再検討するよい機会となった。また、育成する資質・能力を具体的に検討したことで、学習過程に相応しいめあてを設定し、最終的なゴールに向かう活動計画を練ることができた。

(2)総合的な学習の時間年間活動計画の見直し

- ・「児童の思いを生かした探究活動」を意識し、桃ノ木川を主とする計画から、より身近で、学校内で1年をかけて活動できる課題に柔軟に計画を再構成したことで、児童は、自分たちのペースや思いに沿ってそれぞれの過程で取り組むべき課題にじっくりと取り組むようになり、意欲を高めることにつながった。
- ・探究のプロセス（課題の設定→情報の収集→整理・分析→まとめ・表現）を明確にしたことで、教師は、時間毎のめあてと目指す児童の姿をイメージできるようになり、児童も毎時間目的意識をもって活動に取り組めるようになった。
- ・「他教科との連携」について検討したことで、文章の書き方やグラフのかき方など他教科で勉強したことを児童の活動に意図して取り入れるようになり、児童は意識して取り組むことで習熟を図ることができた。

(3)学びを深めるための協働的な学びの工夫

- ・協働的な学びにおける「多様な他者」を「一緒に学習する友達」ととらえ、各学年の目指す姿を具体化したことで、友達の言葉に耳を傾ける、助け合いながら調べる、調べたことについてみんなで意見を出し合ったりまとめたりする場を意図的に設定することができた。
- ・協働的な学びの場は、児童にとって友達のよさや大切さを理解する機会につながっており、友達に進んで声をかけたり教わったりしながら学習を進める姿が見られるようになってきた。
- ・総合の時間には、探究のプロセスに適した思考ツールを用いて視覚化することで、自分や班などの考えを自分たちの力で整理することができるようになってきている。

2 課題

(1)児童の学ぶ意欲を引き出す活動を目指す

- ・今年度の活動をふり返り、検討事項を洗い出して次年度へ引き継ぐことで、児童が、「次には〇〇をやってみたい！」「みんなに〇〇を分かってもらいたい！そのためには？」と、児童の探究意欲をさらに引き出していく。

(2)友達のよさや大切さを実感し、人との関わりを大切にできる児童を育てる

- ・友達と協働することで学びを深め、「〇〇ちゃんって、こんなところがすごい！」「班のみんなと活動したら、むずかしいこともできたよ！」と、協働的に学びながら課題を解決していく中で、友達のよさや大切さを実感し、人との関わりを大事にできる児童を育てていく。
- ・「With コロナ」「After コロナ」の時代においても、人とのコミュニケーションを図れるよう ICT 等の活用方法を工夫していく。